

令和8年度

教 育 計 画

第53期生

滋賀県立看護専門学校

看護専門課程看護学科

# 目 次

I. 教育理念、教育目的・目標	
1. 設置目的	1
2. 教育理念	1
3. 教育目的	1
4. 教育目標	1
5. カリキュラムポリシー	1
6. 看護における主要概念	2
7. 教育課程の考え方	3
8. カリキュラム構造図	4
II. 授業科目、単位数および授業時間数	5
III. 学校行事	7
IV. 教育進度	8
V. 各分野の教育目的と教育内容	9
1. 基礎分野	11
2. 専門基礎分野	24
3. 専門分野	
1) 基礎看護学	50
*看護技術（各看護学）の履修状況と技術水準	64
*基礎看護技術の構築	65
2) 地域・在宅看護論	68
3) 成人看護学	77
*成人看護学援助論マトリックス	84
4) 老年看護学	88
5) 小児看護学	93
6) 母性看護学	99
7) 精神看護学	105
8) 看護の統合と実践	111
4. 臨地実習に関する事項	
1) 臨地実習の進捗・時期	116
2) 臨地実習の評価要領	116
VI. 授業科目の評価要領	117

## I 教育理念、教育目的・目標

### 1. 設置目的

滋賀県民の保健・医療・福祉のニーズに適切に対応できる有能な看護師を育成することを目的とする。

### 2. 教育理念

人間愛を基盤として豊かな人間性を養い、看護の対象への理解と共感ができる専門職業人を育成する。

### 3. 教育目的

看護師に必要な専門的知識・技術および態度を教授し、看護実践者として社会に貢献しうる人材を育成する。

### 4. 教育目標

- 1) 自らの課題を見出し、省察し、学び続けることができる。
- 2) 知識・技術・態度を学修し倫理的判断、科学的根拠に基づく看護が実践できる。
- 3) 多様な価値観を受け入れ、対象の思いや希望を重視した看護が実践できる。
- 4) その人らしい生活が営めるように、保健医療福祉チームや地域の人々との連携・協働における看護の役割が理解できる。
- 5) 自分自身を価値ある人間として受け入れ、心身の健康について自らマネジメントできる。

## 5. 看護における主要概念

### 人間

1. 人間は身体的精神的社会的に統合された存在である。
2. 人間は人という生物体であり、多様な価値観を持つ存在である。
3. 人間は自然・社会（文化的環境）との相互作用の中で生活し、絶えず変化する存在である。
4. 人間は、胎生期から老年期および死に至るまで発達し続ける存在であり、その時々々の発達課題を持っている。
5. 人間は、感性・理性・思考力を持ち、さまざまな欲求を充足しながら行動している。
6. 人間は自らの責任において意思決定し、自己実現へ向かう存在である。
7. 人間には尊厳があり、その人らしく生きる権利がある。

### 健康

1. 健康（状態）には、最良の健康から死までの連続的なレベルがあり、絶えず流動的である。
2. 健康は、人間と自然、社会、（文化的環境）との相互作用において成り立つものである。
3. 望ましい健康状態とは、自らの能力を最大限に発揮し、自己実現をめざし環境に適応している状態である。
4. 健康は個人の価値観によって決まる。
5. 健康は自らの責任によって作り出されるものであり、さらに社会システムとして保障されなければならない。

### 環境（社会）

1. 環境とは、人間を取り巻くすべてである。内部環境と外部環境（自然・社会（文化的））環境の総体である。
2. 外部環境は人間の生活の場であり、人間らしく生きるために欠くことができないものである。
3. 環境は、人間との相互作用において成り立っており、人間の健康状態や成長・発達に影響を与えている。

### 看護

1. 看護の対象は、あらゆる成長・発達段階にある個人および家族・集団を対象とする。
2. 看護は、対象となる人と看護者との人間関係を基盤に成立している。
3. 看護は、あらゆる健康レベルとその変化に応じて、その人らしい生活を整えられるように支援する。
4. 看護の目的は、その人らしくより良く生きるためにその人の持つ能力を最大限に発揮できるように支援することである。
5. 看護は、その人のよりよい健康を目指し、系統的に働きかけるプロセスである。
6. 看護は、ヒューマニズム（人間尊重の立場）に基づく実践の科学である。
7. 看護は、専門職としての独自の機能を有し、保健医療福祉チームの一員としての役割を担う。

## 6. 教育課程の考え方

急速に進む少子・超高齢・多死社会において看護師に寄せられる期待は大きくなっている。同時に生産年齢人口の激減により、医療保険・介護保険などの公的サービスは形を変える必要があり、社会の仕組みを見直す状況にある。これからの看護師に求められるものは臨床・施設に限らず広く地域社会を視野に入れ、健康状態に応じた適切な看護を提供し、その人の生活を支えることである。

看護の対象は人間であり、看護教育において人間を全人的にとらえることができる能力を育成することが重要である。つまり人間を生活者としての側面および身体的・精神的な側面を統合して理解するために必要な知識を身につける。このためには、幅広い人間理解と科学的思考による問題解決能力を身につけることが必要である。基礎分野では、表現力、思考力の基礎を強化するために様々な分野から物の見方、考え方、人との関わりについて広く学び、看護学を学ぶ土台作りとなるように多様な人々の文化や社会的背景を理解する。人との関わり方を学ぶことを通じて、倫理観や豊かな人間性を養う。そして、情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力やコミュニケーション能力を強化し、主体的な学びができるリフレクションの基礎を学ぶことができるように科目を設定している。

専門基礎分野では、臨床判断能力の基盤となる疾病の成り立ちや健康についてより理解をするために疾病を看護の視点で学び、必要な援助につなげるために保健・医療・福祉や生活環境についての知識を学習することをねらいに科目設定した。

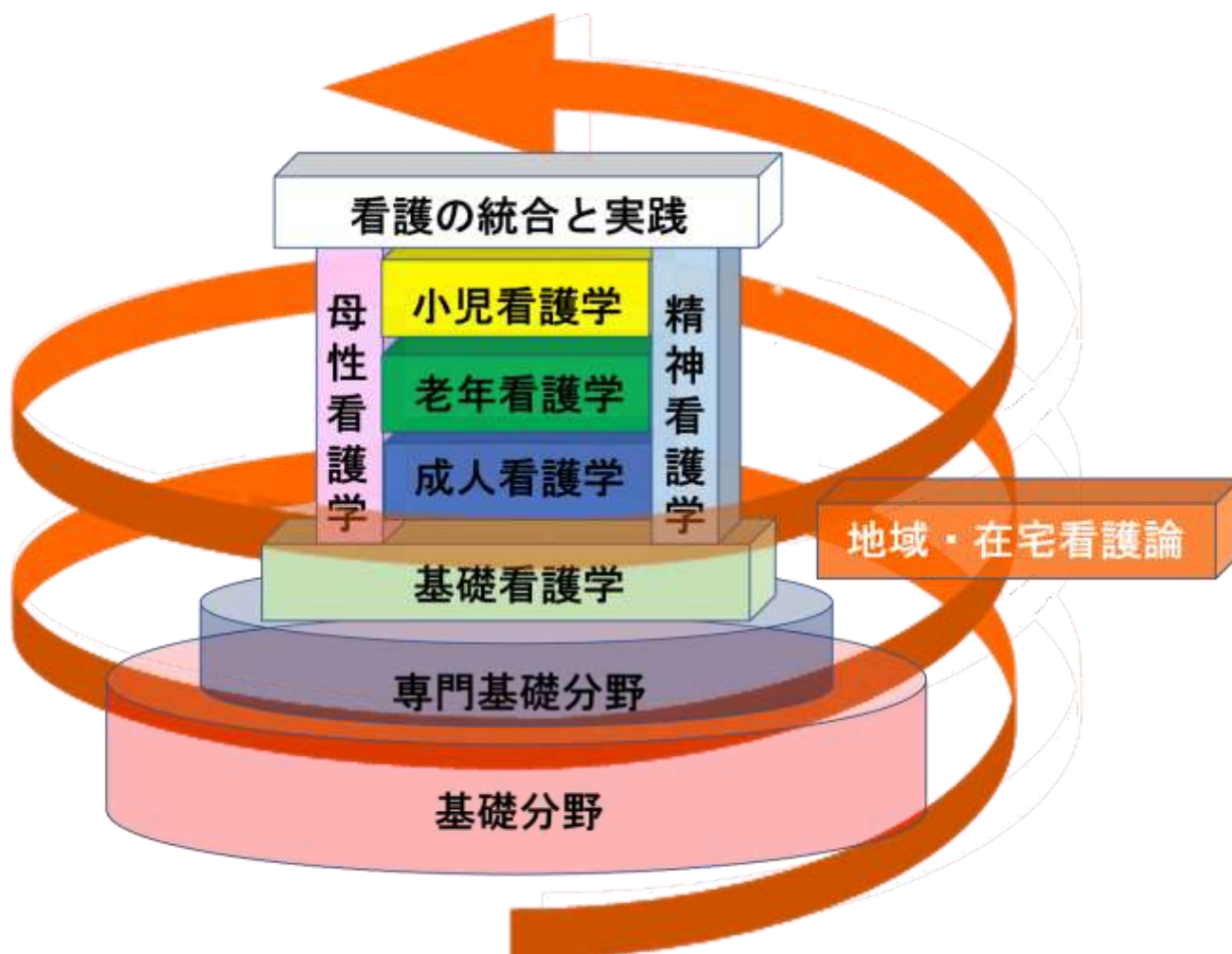
専門分野では、基礎看護学の学習を基本に、人間の成長発達段階で区分した成人・老年・小児の各看護学の学習をし、それらに母性看護学と精神看護学がライフステージ全体に関連していく構造になっている。看護の統合と実践では看護を主体的に実践できる判断力・行動力、看護をマネジメントできる基礎的能力を養うことをねらいとした。また、既習の知識・技術・態度の統合を図るとともに、看護の専門性・ケアの質の向上を迫及する態度を身につけ、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を習得できるようにする。そして、すべての成長発達段階において取り巻くように地域・在宅看護論が関わっている。そのため地域・在宅看護論は基礎看護学と並行して学習を深めていき、地域看護の実践の対象、場、方法の広がりに対応できるように位置づけられている。

また、それぞれの科目において臨床判断ができる思考を身につけられるように科目間の関連やシミュレーション・リフレクションを活用することにより、経験を通して学ぶ「経験の知」を重視した。

それぞれの専門分野での科目の臨地実習においては、病院だけでなく老人保健福祉施設、保育園や保健センター、訪問看護ステーションなど、看護が行われているあらゆる場で幅広い実習を行う。学んだ知識や技術をさまざまな場で統合し、看護の実践ができるように位置づいている。新生児から高齢者まで、健康な人、病気をもちつつ生活している人などさまざまな人に対して、対象が最も望ましい状態へたどる過程を看護の実践を通して学ぶ。

そして、知識や技術の統合を図り、看護の受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うとともに、看護専門職として自己のあり方を省察する能力を身につける。

7. カリキュラム構造図



## II. 授業科目、単位数および授業時間数

教育内容		授業科目	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	国語表現法	1	15
		生活行動科学	1	30
		論理学	1	30
		リフレクション	1	15
		情報リテラシー	2	45
		小計	6	135
	人間と生活、社会の理解	教育学	1	30
		社会学	1	30
		文化人類学	1	15
		心理学	1	30
		コミュニケーション英語	1	30
		(選択) 中国語	1	30
		ポルトガル語		
		身体表現	1	15
人間関係論	1	30		
小計	8	210		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ（人体の構造）	1	30
		解剖生理学Ⅱ（呼吸・循環・体温、体液と電解質）	1	30
		解剖生理学Ⅲ（消化・排泄、内分泌、腎泌尿）	1	30
		解剖生理学Ⅳ（脳神経、運動、感覚）	1	30
		臨床栄養	1	30
		小計	5	150
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	15
		疾病治療論Ⅰ（呼吸、循環）	1	30
		疾病治療論Ⅱ（消化、内分泌）	1	30
		疾病治療論Ⅲ（脳神経、運動）	1	30
		疾病治療論Ⅳ（血液・造血、アレルギー・膠原病、感染症）	1	30
		疾病治療論Ⅴ（感覚、腎泌尿、生殖）	1	30
		薬理学	1	30
		微生物学	1	30
		臨床検査	1	15
		倫理学	1	15
		臨床判断の基礎	1	15
	小計	11	270	
	健康支援と社会保障制度	関係法規	1	15
		公衆衛生学	1	15
		社会福祉	1	30
リハビリテーション概論		1	15	
総合保健医療論		1	15	
健康支援論		1	30	
小計		6	120	
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30
		共通基本技術（総論・コミュニケーション・感染予防）	1	30
		ヘルスアセスメントⅠ（バイタルサイン）	1	15
		ヘルスアセスメントⅡ（フィジカルアセスメント）	1	30
		日常生活援助技術Ⅰ（環境、活動・休息）	1	30
		日常生活援助技術Ⅱ（食事・排泄）	1	30
		日常生活援助技術Ⅲ（清潔・衣生活）	1	30
		診療に伴う技術Ⅰ（与薬）	1	30
		診療に伴う技術Ⅱ（診察・検査）	1	15
		看護理論	1	15
		看護過程	1	30
		臨床看護総論	1	30
		臨床看護技術	1	15
		看護研究・看護倫理	1	30
小計	14	360		

専 門 分 野	地域・在宅看護論	地域と暮らし	1	15
		地域・在宅看護概論（地域包括ケアシステムの中の看護）	1	30
		地域・在宅看護支援論Ⅰ（地域の人々の健康を守る看護）	1	15
		地域・在宅看護支援論Ⅱ（療養生活を支える看護）	1	30
		地域・在宅看護支援論Ⅲ（事例展開）	1	15
		家族看護	1	15
		小計	6	120
	成人看護学	成人看護学概論	1	30
		成人看護学援助論Ⅰ（急性期、循環・呼吸）	1	30
		成人看護学援助論Ⅱ（慢性期、内分泌・腎泌尿）	1	30
		成人看護学援助論Ⅲ（回復期、脳神経・運動）	1	30
		成人看護学援助論Ⅳ（終末期、血液造血・消化）	1	30
		成人看護学援助論Ⅴ（外科系、急性～回復期）	1	30
		成人看護学援助論Ⅵ（事例展開）	1	15
		小計	7	195
	老年看護学	老年看護学概論	1	30
		老年看護学援助論Ⅰ（日常生活の看護）	1	15
		老年看護学援助論Ⅱ（症状・機能障害別看護）	1	30
		老年看護学援助論Ⅲ（事例展開）	1	15
		小計	4	90
	小児看護学	小児看護学概論Ⅰ（子どもと社会）	1	15
		小児看護学概論Ⅱ（子どもの成長・発達と看護）	1	30
		小児看護学援助論Ⅰ（健康障害と看護）	1	30
		小児看護学援助論Ⅱ（状況別看護、事例展開）	1	15
		小計	4	90
	母性看護学	母性看護学概論	1	15
		母性看護学援助論Ⅰ（妊娠期の看護）	1	30
		母性看護学援助論Ⅱ（分娩・産褥期、新生児の看護）	1	30
		母性看護学援助論Ⅲ（事例展開）	1	15
		小計	4	90
	精神看護学	精神看護学概論Ⅰ（心の健康）	1	15
		精神看護学概論Ⅱ（危機・保健活動）	1	30
		精神看護学援助論Ⅰ（健康障害と看護）	1	30
精神看護学援助論Ⅱ（事例展開）		1	15	
小計		4	90	
看護の統合と実践	看護管理・国際看護	1	30	
	医療安全	1	15	
	災害看護	1	15	
	臨床看護実践	1	30	
	小計	4	90	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ（生活者と生活環境・コミュニケーション）	2	80	
	基礎看護学実習Ⅱ（対象理解・日常生活援助）	2	80	
	地域・在宅看護論実習Ⅰ（健康と生活の支援）	1	40	
	地域・在宅看護論実習Ⅱ（ヘルスプロモーション、在宅療養者への看護）	2	80	
	成人・老年看護学実習Ⅰ（慢性の経過をたどる対象の看護）	2	80	
	成人・老年看護学実習Ⅱ（慢性期、回復期、終末期）	2	80	
	成人・老年看護学実習Ⅲ（急性・回復期）	2	80	
	老年看護学実習	1	40	
	小児看護学実習	2	80	
	母性看護学実習	2	80	
	精神看護学実習	2	80	
	統合実習	3	120	
	小計	23	920	
	合 計			106

### Ⅲ. 学校行事・科目外活動

#### (1) 学校行事

活動内容	時期	学年および時間数			ねらい
		1年次	2年次	3年次	
始業式	4月		1H	1H	学校生活に節目を付け、気持ちを一新かつ引き締め新年度からの学習の動機付けとする。
入学式	4月	1H			新入学を祝し、看護学生としての自覚と責任を認識する機会とする。
新入生歓迎会	4月	8H	8H	8H	新入生を迎え、学生間および教員相互の親睦を深め、学生生活をより充実・向上できることを目的とする。
入学時研修	4月	8H			学生間の親睦を深め、看護を学ぶ上で自己の目標を明確にする。学生の主体性、創造性、協調性を養う。
防災訓練	4月	1H	1H	1H	防災意識を高め、避難方法・初期消火の行動ができる。
交通安全教室	4月	1H	1H	1H	交通安全に対する意識を高め、交通事故の防止に努める。
健康診断	4月 6月	1H 1H	1H 1H	1H 1H	自己の健康状態を知り、健康管理の必要性を認識する。
2年次研修	6月		8H		校外での集団活動を通して学生相互の親睦と連帯感を養い、自他を認め、人間関係の築き方を学ぶ。
3年次研修	8月			4H	3年次の前半の学びをふりかえり、看護師国家試験受験対策の導入をはかる。
人権研修	11月	2H	2H	2H	人権に対する意識を高め、性差・障害者などの区別なくすべてにおいて平等であることの重要性を学ぶ。
特別講演	3月	2H	2H	2H	講演を聴くことにより、良識と豊かな人間性を養う。また、看護観育成の機会とする。
卒業式	3月			1H	所定の教育課程を修了し、卒業証書を受け、専門士としての門出を祝す。
終業式	3月	1H	1H		1年間を振り返り、学習の努力や成長を実感し新年度に活かす。

#### (2) 科目外活動

- ・入学ガイダンス
- ・ホームルーム
- ・国家試験対策
- ・実習事前（オリエンテーション含む）・事後等

\* 詳細は別途示す。



## V 各分野の教育目的と教育内容

### 基礎分野

目的：専門分野、専門基礎分野の基礎として位置づけ、幅広いものの見方、考え方、そして、看護職に必要な人間を全人的に理解するための知識を学習する。

目標 1：科学的思考力および情報処理能力を高め、感性を磨き、主体的に判断し、行動できる力を身につける。また、経験をリフレクションし、経験の価値づけと課題を見いだすことができる力を身につける。

#### 「科学的思考の基盤」

目標 2：様々な生活様式・暮らし・文化を学習し、人間と社会の仕組みを幅広く理解し、国際的にも視野を広げ、多様な人々の価値観を受け入れ、コミュニケーションをとることができる能力を養う。

#### 「人間と生活、社会の理解」

### 専門基礎分野

目的：看護学を学ぶ上で基礎となる人間の健康状態について学び、専門的に援助するために必要な保健・医療・福祉の関係機関の職種での連携・協働について学習する。

目標 1：人体の構造・機能、病態生理を系統立てて理解し、疾病を看護の視点、人間尊重の立場でとらえ、健康・疾病・障害に関する観察力を身につけ、臨床判断の基礎的能力を養う。

#### 「人体の構造と機能」

#### 「疾病の成り立ちと回復の促進」

目標 2：人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じ、社会資源を活用できるよう支援するために、必要な知識と基礎的な能力を養い、保健・医療・福祉に関する基本概念や関係制度および保健・医療・福祉チームの一員としての役割について理解する。

#### 「健康支援と社会保障制度」

## 専門分野

### 1. 基礎看護学

目的：看護学の基盤となる概念『人間・健康・環境（社会）・看護』や看護倫理、歴史など看護に共通する概念や基礎的理論を学ぶ。

それぞれの領域における看護の対象や目的をとらえ、対象の状況に応じた看護の方法を学ぶ。

また、保健・医療・福祉チームの一員としての役割を理解し、看護実践の基本となる知識・技術・態度を学ぶ。

### 2. 地域・在宅看護論

目的：地域で暮らす人々の様々な健康状態に応じた健康支援の方法について学ぶ。また在宅で生活しながら療養する人とその家族を理解し、生活の場に応じた看護を実践する方法を学ぶ。地域包括ケアシステムにおいて多職種が連携・協働する意義と看護師の役割について学ぶ。

### 3. 成人看護学

目的：成人期にある対象の特徴を理解し、成人看護の特性や、看護の役割と機能を学び、疾病の予防、健康の回復・保持・増進あるいは、疾病・障害を有する人々に対する健康状態の経過に基づく看護の方法を学ぶ。

### 4. 老年看護学

目的：老年期にある対象の特徴を理解し、加齢性変化と健康の状態に応じた高齢者と家族への看護を学ぶ。

### 5. 小児看護学

目的：小児期にある対象の特徴を理解し、成長・発達段階および健康状態に応じた子どもと家族への看護を学ぶ。

### 6. 母性看護学

目的：母性看護の対象の特徴を理解し、母性各期の健康の保持・増進及び新生児の看護について学ぶ。

### 7. 精神看護学

目的：精神の健康の保持増進や心のバランスを崩している人・精神に障害をもつ人と家族への看護について学ぶ。

### 8. 看護の統合と実践

目的：看護をマネジメントできる基礎的能力を養い、組織における看護師の役割を理解する。既習の知識・技術、および態度を統合させ、対象の状況を判断し看護実践できる基礎的能力を養う。また、医療安全や災害時の看護について学ぶ。

1) 科学的思考の基盤

授業科目	国語表現法	担当 教員	三宅 えり	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	<p>1. 語彙の正確な意味や使い方を身につけ、日本語の構造や言葉の役割を知ること で国語力をより確実なものとする。</p> <p>2. 文章の基本を学び論文の書き方の基礎を身につける。</p>						
時間	学 習 内 容						
4 H	<p>1. 国語表現法とは</p> <p>2. 文章の構成</p> <p>1) 効果的な構成方法</p> <p>2) 語彙の正確な使い方 「事実」と「意見」「感想」の違い</p>						
6 H	<p>3. 文章を書く目的と心構え</p> <p>4. 敬語の目的と方法</p> <p>1) 敬語の種類と語彙</p> <p>2) 敬語の用法</p>						
4 H	<p>5. 文章による表現力</p> <p>1) 文章・作文の基本</p> <p>2) 原稿用紙の使い方</p>						
試験 1 H	<p>6. 小論文の書き方 <u>演習</u></p> <p>1) 論文とは何か</p> <p>2) 論文を書く際の注意</p> <p>3) 資料の読解</p> <p>4) 注、引用、文献表の付け方</p> <p>5) 論文作成</p>						
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他							

1) 科学的思考の基盤

授業科目	生活行動科学	担当 教員	西岡 靖貴	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	人間が活動する際、身体への負荷を軽減させ目的行動を合理的に行うことができるように、看護行為の安全性や安楽の視点、科学的で効率のよい合理的な姿勢で動作を行うための基礎知識を理解する。						
時間	学 習 内 容						
12H	1. 生活行動科学とは						
	2. 力学の話 (演習)						
	1) 力の「効果的な力の合わせ方」						
	2) てこの原理						
	3) 力のモーメント						
	4) 摩擦力・摩擦の法則						
	5) 重心について						
	6) 人間の動作と物理学との関係						
	・ボディメカニクス						
	・姿勢と動作						
	・体位変換						
10H	3. 圧力の原理と実際 (演習)						
	1) 気圧とは						
	2) 圧力と気体						
	・ボイル・シャルルの法則						
	3) 流体の圧力						
	・血圧について						
	4) 吸引の原理						
	・サイフォンの原理						
7H	4. 熱現象の原理 (演習)						
	1) 温度変化と比熱						
	2) 熱エネルギー						
	3) 熱計算						
	4) 熱の移動						
試験1H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	完全版 ベッドサイドを科学する —看護に生かす物理学— (Gakken)						

1) 科学的思考の基盤

授業科目	論理学	担当 教員	大川 繁則	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		3年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	論理的思考の必要性とその基本的知識を学び、すじみちを立てて、物事を考える姿勢を養う。						
時間	学 習 内 容						
10H	<p>1. 論理学とは</p> <p>1) 論理的に考えるとは</p> <p>2) クリティカルシンキングとは</p> <p>2. クリティカル思考</p> <p>1) 「事実」と「意見」の区別</p> <p>2) 「理由・根拠」と「主張・結論」の区別</p> <p>3) 推論の妥当性</p>						
10H	<p>3. 根拠としての事実</p> <p>1) 事実検討</p> <p>2) スキーマについて</p> <p>3) 偏った事実</p>						
9H	<p>4. 要約と批判</p> <p>1) 議論の分析 <u>演習</u></p> <p>2) 虚偽論の分類</p>						
試験1H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	クリティカル進化論 (北大路書房)						

1) 科学的思考の基盤

授業科目	リフレクション	担当 教員	伊吹 麻紀子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	1年次・後期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	リフレクションプロセスを学習し、経験の意味づけができる。 また、経験から得た価値を次の看護実践に活かすことが理解できる。						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. リフレクション学習の基礎知識						
	2. 看護におけるリフレクションの意義						
	3. リフレクションのサイクル ギブスのリフレクティブ・サイクル						
2 H	4. リフレクティブ・サイクルの実際例						
10 H	5. リフレクションの実際 演習						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他							

1) 科学的思考の基盤

授業科目	情報リテラシー	担当 教員	吉野 衣美	単位数	2	時間数	45
				受講年次・時期	1年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	<p>1. 情報科学の基礎理論や、その技術側面であるコンピュータに関する知識を深め、それを看護の考え方や看護情報の処理診断に役立てる。</p> <p>2. さまざまな情報を活用するうえで情報倫理や安全性について理解できる。</p>						
時間	学 習 内 容						
6 H	<p>1. コンピュータと情報</p> <p>1) 動作原理と計算機モデル</p> <p>2) 情報と通信の理論</p> <p>3) AI</p>	6 H	<p>6. 統計学 <u>演習</u></p> <p>1) 母集団と標本、特徴を表す値</p> <p>2) 標準化、確率密度関数</p> <p>3) 相関</p>				
4 H	<p>2. ハードウェアとソフトウェア</p> <p>1) 各種データの特徴とファイル</p> <p>2) OSとアプリケーション</p>	6 H	<p>7. プレゼンテーションソフトの活用 <u>演習</u></p> <p>1) プレゼンテーションの計画</p> <p>2) スライドのデザイン</p>				
6 H	<p>3. インターネット</p> <p>1) 成り立ち、プロトコル</p> <p>2) マルウェアとセキュリティ</p> <p>3) ネットリテラシー</p> <p>4) 電子メール</p>	2 H	<p>8. 医療と情報</p> <p>1) 医療情報の電子化、情報管理</p>				
6 H	<p>4. ワードプロセッサの活用 <u>演習</u></p> <p>1) 文書についての考え方</p> <p>2) 複合文書の作成</p>		<p>9. 情報倫理</p> <p>1) 個人情報保護</p> <p>2) セキュリティ対策</p>				
8 H	<p>5. 表計算ソフトの活用 <u>演習</u></p> <p>1) セルと式</p> <p>2) 関数</p> <p>3) グラフ</p>						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他							

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	教育学	担当 教員	石長 佑一	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	2年次・後期		
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	<p>1. 教育の意義や基本構造を中心に教育の基本的な事項を理解する。現実に行われている教育活動に目を向け、教育の現状と今後あるべき方法を模索する。</p> <p>2. 自分の教育観と他者の教育観を理解する力をつけ、日常の学びの場面や対人関係場面で活かすことを目指す。</p>						
時間	学 習 内 容						
4 H	<p>1. 教育とは何か</p> <p>1) 人間形成としての教育</p> <p>2) 素質と環境</p> <p>3) 学習・教育の必要性と可能性</p> <p>4) 意図的教育と無意図的教育</p>	6 H	<p>5. 教育の歴史的展開</p> <p>1) 日本の教育的思想</p> <p>2) 日本の近代教育思想</p>				
	<p>2. 教育の本質</p> <p>1) 成長・発達の援助</p> <p>2) 文化の伝達</p> <p>3) 良心の覚醒</p>	4 H	<p>7. 教育の方法</p> <p>1) 構造的展開</p> <p>2) 自発性・保護、抑制、助成</p> <p>3) 直観の原理</p> <p>4) 表現の原理</p>				
8 H	<p>3. 教育の目的</p> <p>1) 一般的性格</p> <p>2) わが国の教育目的</p> <p>3) これからの学校教育の目的・目標</p>	7 H	<p>8. 生涯学習論</p> <p>9. 社会教育の課題</p>				
	<p>4. 欧米の教育思想の展開</p> <p>1) コメニウス</p> <p>2) ロック</p> <p>3) ルソー</p> <p>4) ペスタロッチ</p> <p>5) フレーベル</p> <p>6) コンドルセ</p> <p>7) オーエン</p> <p>8) デューイ</p>		<p>10. 日本の教育制度</p>				
試験 1 H							
成績評価方法	<p style="text-align: center;">筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)</p>						
参考文献他							

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	社会学	担当 教員	須羽 新二	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	<p>1. 社会のしくみ、家族、集団、組織とは何かを学び、個と社会との関係を理解する。                  2. 物事を社会の中で多角的、批判的に見る社会学的なとらえ方を学び、医療・看護に関する社会現象を理解する。</p>						
時間	学 習 内 容						
10H	<p>1. 社会学の基礎概念</p> <p>1) 個人と社会</p> <p>2) 行為、社会行為</p> <p>3) 相互行為、社会関係、地位-役割</p> <p>4) 集団、地域社会、組織 ネットワーク</p> <p>5) 制度、全体社会、グローバル</p> <p>6) 社会変動とグローバリゼーション</p>	3H	<p>4. 保健医療と社会学</p> <p>1) 公衆衛生と社会医学</p> <p>2) 社会システムとしての医療</p>				
4H	<p>2. 社会学的視点とモデル</p> <p>1) 合意とコンフリクト</p> <p>2) 構造と解釈</p>	4H	<p>5. 健康・病気の社会的格差</p> <p>1) 健康病気の社会格差の諸相</p> <p>2) 社会格差による健康格差 発生のメカニズム</p> <p>3) 社会格差是正の取り組み</p>				
8H	<p>3. 家族の基本概念</p> <p>1) ライフコースの変化</p> <p>2) 家族の発達段階と発達課題</p> <p>3) 家族と社会</p> <p>4) 家族と保健医療</p> <p>5) 性・ジェンダー</p> <p>6) 高齢者と家族</p>						
試験1H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	看護を学ぶ人のための社会学 (明石書店)						

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	文化人類学	担当 教員	横田 祥子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	<p>1. 文化人類学における社会や文化の捉え方、考え方の学習を通して、人やそこに暮らす生活様式、個人と社会のつながりについて理解できる。</p> <p>2. 世界の諸文化と自分の所属する文化を相対化し、文化の多様性が理解できる。</p>						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. 文化人類学を学ぶ意義						
2 H	<p>2. 人間と文化</p> <p>1) 人種と民族と文化</p> <p>2) 国家と民族と文化</p>						
2 H	<p>3. 人間関係と社会</p> <p>1) 個人と社会</p> <p>2) 家族</p> <p>3) 家族をこえたつながり</p>						
2 H	<p>4. 人生と通過儀礼</p> <p>1) 通過儀礼とは</p> <p>2) 儀礼の構造</p>						
2 H	<p>5. 生活と文化</p> <p>1) 農耕、狩猟、経済</p> <p>2) 日常生活の中の信仰</p>						
5 H	<p>6. 生命・医療を文化人類的視点で捉える</p> <p>1) 文化と身体観</p> <p>2) 文化と病気観</p> <p>3) 文化と病気治療</p> <p>4) 死の考え方</p>						
成績評価方法	<p style="text-align: center;">課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)</p>						
参考文献他	文化人類学 (医学書院)						

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	心理学	担当 教員	高垣 愉佳	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	人間の心理・行動の基礎にある原理を学び自己及び対象を多角的に理解する能力を養う。						
時間	学 習 内 容						
6 H	1. 心理学とは	6 H	5. ストレスとは	6 H	7. 精神分析的心理療法	5 H	9. 集団心理
	2. 知覚		1) ストレスのメカニズム		8. 認知行動療法		10. カウンセリング
	1) 知覚の成立条件		2) 喪失体験からの回復プロセス		1) カウンセリングとは		2) 面接技法
	2) 知覚の異常		6. アサーショントレーニング				
6 H	3. 記憶	6 H	7. 精神分析的心理療法	8. 認知行動療法			
	1) 記憶とは						
	2) 忘却の心理						
	3) 記憶の変化と工夫						
	4) 記憶障害						
	4. 思考・想像・言語						
	1) 思考作用						
	2) 思考力の発達						
	3) 想像性						
	4) 言語の習得と機能						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業評価の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 基礎 心理学 (医学書院)						

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	コミュニケーション英語	担当 教員	石田 法雄	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	<p>1. 英会話の基礎知識を学び、日常や医療現場でよく使う英会話ができる能力を養う。                  2. 看護を行う上で必要な情報を得るための基礎的な医学英語を理解する。</p>						
時間	学 習 内 容						
10H	<p>1. 英会話 演習</p> <p>1) listening                  2) reading                  3) speaking                  4) writing</p>						
10H	<p>2. 看護文献・医療関係のニュース等について読解</p>						
9H	<p>1) 医学英単語の理解                  2) 8品詞 (Eight parts of speech)                  3) 冠詞 Articles                  4) 自動詞と他動詞</p>						
試験 1H							
成績評価方法	<p>筆記試験・課題                  (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)</p>						
参考文献他							

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	中国語 ポルトガル語	担当 教員	林 虹 足立 愛結	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	2年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	選択		
		—					
学習目標	<p>〈中国語〉 異文化理解の一環として中国の文化に親しみ コミュニケーション手段としての中国語の簡単な会話ができる基礎的な能力を養う。</p> <p>〈ポルトガル語〉 異文化理解の一環としてブラジルの文化に親しみ コミュニケーション手段としてのポルトガル語の簡単な会話ができる基礎的な能力を養う。</p>						
時 間	学 習 内 容						
4 H	1. 中国語圏、ポルトガル語文化圏の事情を概観する。						
4 H	2. 基礎文法						
4 H	3. 日常生活で用いられる標準的な慣用表現						
4 H	4. 基礎的な文型で適切な文章表現 <u>演習</u>						
4 H	5. 中国語、ポルトガル語の聴講						
4 H	6. 構文の理解						
5 H	7. 日常あいさつ (会話) <u>演習</u>						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	ポ：ブラジルを発見 ブラジル・ポルトガル語入門 (同学社) 中：ジョイフル中国語 (郁文堂)						

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	身体表現	担当 教員	横田 佳子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	3年次・中期		
授業形式	講義・実技	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	健康づくりの一環として、運動を行うことの楽しさやリラクゼーション及びその効果について理解する。また、身体活動を取り入れた表現方法も身につける。						
時間	学 習 内 容						
2H	1. ガイダンス						
	・健康と体力						
	・エアロビクス 基本の動き (ベース)						実技
11H	2. 健康づくりとしての運動						
	・エアロビクス (練習)、ストレッチ						実技
	・ダンス 基本の動き (ベース)						実技
	・ダンス (練習)、ヨガ						実技
試験 2H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他							

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	人間関係論	担当 教員	中村 好孝	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前・中期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	自己の対人関係のあり方に気づき、人間関係のもち方・つくり方・継続の仕方について学び、人間関係はいかにあるべきかを理解する。						
時間	学 習 内 容						
12H	1. 人間観						
	2. 自己を知る（自己開示、ジョハリの窓、シェアリング等）						
	3. 対人認知（構成的グループエンカウンター）						
8H	4. 現代社会の人間関係演習						
	5. 人間関係のひずみ						
8H	6. 人間関係の改善						
	7. 人間関係の実際（カウンセリングを含む）						
	1) エゴグラム、交流分析						
	2) 自己意識・自尊感情						
	3) とらわれ・かまへの心理						
	4) アサーション権						
1H	8. 看護における人間関係						
試験1H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他							

1) 人体の構造と機能

授業科目	解剖生理学 I (人体の構造)	担当 教員	藤居 亜喜文・宮澤 拓也 佃 美里・八田 頼卓		単位数	1	時間数	30	
					受講年次・時期		1年次・前期		
授業形式	講義	実務経験			必修・選択別	必修			
		有							
学習目標	人体の発生・構造について学び、形態と機能を系統的に理解する。また、それらが人の生命、生活にどのように関わるのかを理解し、看護実践の土台とする。								
時間	学 習 内 容								
6 H	1. 人体の素材としての細胞・組織 1) 細胞の構造 2) 細胞を構成する物質とエネルギーの生成 3) 細胞膜の構造と機能 4) 細胞の増殖と染色体 5) 分化した細胞がつくる組織	4 H	4. 自律神経系による調整 1) 自律神経系の機能 2) 自律神経系の構造 3) 自律神経の神経伝達物質と受容体	2 H	5. 皮膚の構造と機能 6. 生体の防御機構 1) 非特異的防御機構 2) 特異的防御機構(免疫系) 3) 生体防御の関連臓器 7. 代謝と運動	4 H	2. 構造と機能からみた人体 1) 構造からみた人体 2) 機能からみた人体 3) 体液とホメオスタシス ・体液の区分と水分 ・電解質と非電解質	2 H	8. 体温とその調節 1) 体温 2) 体温の調節
4 H	3. 血液 1) 血液の組成と機能 2) 赤血球 3) 白血球 4) 血小板 5) 血漿タンパク質 6) 血液型	7 H	9. 男性の生殖器系 10. 女性の生殖器系 11. 受精と胎児の発生 12. 成長と老化	試験 1 H					
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)								
参考文献他	系看 専門基礎 解剖生理学 (医学書院) 系看 準拠 解剖生理学ワークブック (医学書院)								

1) 人体の構造と機能

授業科目	解剖生理学Ⅱ (呼吸・循環・体温、体液と電解質)	担当 教員	井之口 文月	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	人体の発生・構造について学び、形態と機能を系統的に理解する。また、それらが人の生命、生活にどのように関わるのかを理解し、看護実践の土台とする。						
時間	学習内容						
9 H	1. 呼吸器の構造 1) 呼吸器の構成 2) 上気道 3) 下気道と肺 4) 胸膜・縦隔  2. 呼吸 1) 内呼吸と外呼吸 2) 呼吸器と呼吸運動 3) 呼吸気量 4) ガス交換とガスの運搬 5) 肺の循環と血流 6) 呼吸運動の調節	14 H	3. 循環器系の構成  4. 心臓の構造  5. 心臓の拍出機能 1) 刺激伝道系 2) 心臓の収縮  6. 末梢循環器系の構造 1) 血管の構造 2) 肺循環の血管 3) 全身の動脈 4) 全身の静脈  7. リンパとリンパ管	6 H	解剖見学 (滋賀医科大学)		
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門基礎 解剖生理学 (医学書院) 系看 準拠 解剖生理学ワークブック (医学書院)						

1) 人体の構造と機能

授業科目	解剖生理学Ⅲ (消化・排泄、内分泌、腎泌尿)	担当 教員	塩見 尚礼 井之口 文月	単位数	1	時間数	30
授業形式	講義	実務経験 有		必修・選択別		1年次・前期 必修	
学習目標	人体の発生・構造について理解し、形態と機能を系統的に理解する。また、それらが人の生命、生活にどのように関わるのかを理解し、看護実践の土台とする。						
時間	学 習 内 容						
15H	1. 口・咽頭・食道の構造と機能  2. 腹部消化管の構造と機能 1) 胃の構造と機能 2) 小腸の構造と機能 3) 大腸の構造と機能  3. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 1) 膵臓の構造と機能 2) 肝臓の構造と機能 3) 胆嚢の構造と機能  4. 腹膜	14H	5. 内分泌系による調節 1) 内分泌とホルモン  6. 全身の内分泌腺と内分泌細胞 1) 視床下部 - 下垂体系 2) 甲状腺と副甲状腺 3) 膵臓 4) 副腎 5) 性腺  7. ホルモン分泌の調整  8. 腎臓の構造と機能  9. 糸球体の構造と機能  10. 尿細管の構造と機能  11. 傍糸球体装置  12. 排尿路 1) 排尿路の構造 2) 尿の貯蔵と排尿  13. 体液の調節 1) 水の出納 2) 脱水 3) 電解質の異常 4) 酸塩基平衡	試験 1H			
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門基礎 解剖生理学 (医学書院) 系看 準拠 解剖生理学ワークブック (医学書院)						

1) 人体の構造と機能

授業科目	解剖生理学Ⅳ (脳神経、運動、感覚)	担当 教員	井之口 文月 加地 祐哉	単位数	1	時間数	30
授業形式	講義	実務経験 有		受講年次・時期		1年次・前期	
学習目標	人体の発生・構造について理解し、形態と機能を系統的に理解する。また、それらが人の生命、生活にどのように関わるのかを理解し、看護実践の土台とする。						
時間	学習内容						
17H	1. 神経系の構造と機能 1) 神経細胞と神経組織  2. 脊髄と脳 1) 脊髄の構造と機能 2) 脳の構造と機能  3. 脊髄神経と脳神経 1) 脊髄神経の構造と機能 2) 脳神経の構造と機能  4. 運動機能と下行伝導路 1) 運動ニューロン 2) 下行伝導路  5. 感覚機能と上行伝導路 1) 体性感覚 2) 上行伝導路  6. 眼の構造と視覚  7. 耳の構造と聴覚・平衡覚  8. 味覚と嗅覚  9. 脳の統合機能	12H	10. 骨格  11. 骨の連結 1) 関節  12. 骨格筋 1) 骨格筋の構造  13. 体幹の骨格と筋  14. 上肢の骨格と筋  15. 下肢の骨格と筋  16. 頭頸部の骨格と筋  17. 筋の収縮				
試験1H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門基礎 解剖生理学 (医学書院) 系看 準拠 解剖生理学ワークブック (医学書院)						

1) 人体の構造と機能

授業科目	臨床栄養	担当 教員	木村 友美	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	1年次・後期		
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	人体を維持するための栄養素の種類とエネルギー代謝について学び、看護における栄養摂取の促進、食事療法の基本を理解する。						
時間	学習内容						
2 H	1. 栄養とは 1) 栄養の意義 2) 栄養状態の評価・査定 3) 看護と栄養	1 3 H	6. 栄養食事療法 <u>演習</u> 1) 栄養食事療法 (消化器系疾患) 2) 栄養食事療法 (循環器系疾患) 3) 栄養食事療法 (腎疾患) 4) 栄養食事療法 (栄養代謝系疾患— 糖尿病)				
4 H	2. 栄養素の種類と働き 1) 糖質 2) 脂質 3) タンパク質・アミノ酸 4) ビタミン		5) 栄養食事療法 (栄養代謝系疾患— 高脂血症・高尿酸血症) 6) 栄養食事療法 (血液疾患—貧血) 7) 栄養食事療法 (腎臓疾患)				
2 H	3. エネルギー代謝 1) エネルギーの供給 2) エネルギー消費						
6 H	4. ライフステージと栄養 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期 4) 思春期・青年期 5) 成人期 6) 高齢期						
2 H	5. 臨床栄養 1) 病院食の特徴 2) 種類						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門基礎 栄養学 (医学書院)						

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	病理学	担当 教員	野田 秀樹	単位数	1	時間数	15
授業形式	講義	実務経験 有		受講年次・時期		1年次・後期	
学習目標	疾病を引き起こすさまざまな病変の基本的メカニズムについて理解する。						
時間	学 習 内 容						
14H	<p>1. 病理学とは</p> <p>2. 病因論</p> <p>3. 細胞・組織の障害と修復</p> <p>1) 細胞・組織の損傷と適応</p> <p>2) 細胞・組織の損傷に対する反応</p> <p>3) 炎症の分類と治療</p> <p>4. 免疫、移植と再生医療</p> <p>1) 免疫と免疫不全</p> <p>2) アレルギーと自己免疫疾患</p> <p>3) 移植と再生医療</p> <p>5. 感染症</p> <p>1) 感染の成立と感染症の発病</p> <p>2) おもな感染症</p> <p>3) 感染症の治療・予防</p> <p>6. 循環障害</p> <p>1) 循環血液量の障害</p> <p>浮腫、充血、うっ血、 虚血、出血</p> <p>2) 閉塞性の循環障害</p> <p>血栓症、塞栓症、梗塞</p> <p>3) ショックと臓器不全</p>		<p>7. 代謝障害</p> <p>1) 脂質代謝障害</p> <p>2) タンパク質代謝障害</p> <p>3) 糖質代謝異常</p> <p>4) その他の代謝障害</p> <p>8. 先天異常と遺伝性疾患</p> <p>1) 遺伝の生物学</p> <p>2) 先天異常</p> <p>9. 腫瘍</p> <p>1) 腫瘍の定義と分類</p> <p>2) 悪性腫瘍の広がりと影響</p> <p>3) 腫瘍発生の病理</p> <p>4) 腫瘍の診断と治療</p> <p>10. 老化と死</p> <p>1) 老化のメカニズム</p> <p>2) 個体の死と終末期医療</p> <p>11. 生活習慣と環境因子による生体障害</p> <p>1) 生活習慣による生体の障害</p> <p>2) 放射線による生体の障害</p> <p>3) 中毒</p>				
試験 1H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門基礎 病理学 (医学書院)						

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論 I (呼吸、循環)	担当 教員	田久保 康隆 林 優	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。						
時間	学 習 内 容						
8 H	循環器系 1. 代表的疾患の病態生理 1) 虚血性心疾患 2) 心不全 3) 血圧異常 4) 不整脈 5) 弁膜症 6) 心筋疾患 7) 先天性心疾患 8) 動脈系疾患	8 H	呼吸器系 1. 代表的疾患の病態生理 1) 感染症 (1) 気管支炎 (2) 肺炎 (3) 肺結核 2) 間質性肺疾患 (1) 間質性肺炎 3) 気道疾患 (1) 気管支喘息 (2) 慢性閉塞性肺疾患 4) 肺循環疾患 5) 呼吸不全 6) 呼吸調整に関する疾患 7) 肺腫瘍 8) 肺・肺血管形成異常 9) 胸膜・縦隔・横隔膜疾患	2 H	2. 主な検査 1) 心電図 2) 画像検査 3) 血液検査 4) 心臓カテーテル法	2 H	2. 主な検査 1) 画像診断 2) 内視鏡検査 3) 呼吸機能検査 4) 血液検査 5) 痰検査 6) 生検
4 H	3. 主な治療 1) P T C A 2) 薬物療法 3) 安静療法 4) 食事療法 5) 手術療法 (1) ペースメーカー植込術 (2) バイパス術 (3) 弁置換術 (4) 人工血管置換術	5 H	3. 主な治療 1) 酸素療法 2) 吸入療法 3) 呼吸理学療法 4) 薬物療法 5) 化学療法 6) 放射線療法 7) 胸腔ドレーナージ 8) 手術療法 (1) 開胸術と胸腔鏡手術 (2) 肺切除術	試験 1 H			
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 成人看護学 3 循環器 (医学書院) 系看 専門 成人看護学 2 呼吸器 (医学書院)						

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅱ (消化、内分泌)	担当 教員	谷口 正展 森田 善方	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	2年次・前期		
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。						
時間	学 習 内 容						
8 H	消化器系 1. 代表的疾患の病態生理 1) 食道の疾患 (1) 食道癌 2) 胃・十二指腸の疾患 (1) 胃・十二指腸潰瘍 (2) 胃癌 3) 腸および腹膜の疾患 (1) 腸炎 (2) イレウス (腸閉塞症) (3) 腹膜炎 (4) 腸管ポリープ (5) 結腸癌・直腸癌 4) 肝臓・胆嚢の疾患 (1) 肝硬変症 (2) 肝癌 (3) 胆石症 (4) 胆嚢癌・胆管癌 5) 膵臓の疾患 (1) 膵炎 (2) 膵癌	4 H	3. 主な治療 1) 食事療法 2) 薬物療法 3) 安静療法 4) 内視鏡的治療 5) 塞栓療法 6) 手術療法 (1) 開腹術と腹腔鏡下手術 (2) 胃切除術 (3) 結腸切除術 (4) 直腸切除・人工肛門造設術				
2 H	2. 主な検査 1) 肝機能検査 2) 放射線診断or画像診断 3) 内視鏡検査 4) 腹部超音波検査 5) 肝生検						

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅱ (消化、内分泌)	担当 教員	谷口 正展 森田 善方	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
時間	学習内容						
8 H	内分泌・代謝系 1. 代表的疾患の病態生理 内分泌疾患 1) 副腎皮質疾患 (1) クッシング症候群 2) 甲状腺疾患 (1) 甲状腺機能亢進症 (2) 甲状腺機能低下症 代謝疾患 1) 糖尿病 2) 痛風 3) 高脂血症 4) メタボリックシンドローム						
2 H	2. 主な検査 1) 血液検査 (ホルモン定量) 2) 尿検査 3) 負荷試験 4) 画像診断						
5 H	3. 主な治療 1) 食事療法 2) 運動療法 3) 薬物療法						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 成人看護学 5 消化器 (医学書院) 系看 専門 成人看護学 6 内分泌・代謝 (医学書院)						

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅲ (脳神経、運動)	担当 教員	樋口 一志 青山 朋樹	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	2年次・前期		
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。						
時間	学 習 内 容						
6 H	脳神経系 1. 代表的疾患の病態生理 1) 脳血管障害 (1) 脳梗塞 (2) 脳内出血 (3) クモ膜下出血 2) 変性疾患 (1) パーキンソン病 3) 神経・筋疾患 (1) 筋萎縮性側索硬化症 4) 感染症 (1) 髄膜炎 5) 脳腫瘍 6) 頭部外傷 7) てんかん 8) 認知症	4 H	3. 主な治療 1) 薬物療法 2) リハビリテーション 3) 放射線療法 4) 手術療法 (1) 開頭術 ①クリッピング ②腫瘍摘出術 (2) 穿頭術 ①血腫除去術 (3) シヤント				
4 H	2. 主な検査 1) 血管造影 2) CT 3) MRI 4) 腰椎穿刺 5) 各種反射 6) 筋電図 7) 脳波						

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅲ (脳神経、運動)	担当 教員	樋口 一志 青山 朋樹	単位数	1	時間数	30
授業形式	講義	実務経験 有		受講年次・時期		2年次・前期	
時間	学習内容						
6 H	運動器系 1. 代表的疾患の病態生理 1) 骨折 2) 先天性疾患 3) 脱臼 4) 炎症性疾患 (1) 骨髄炎 (2) 変形性膝関節炎 (3) 慢性関節リウマチ 5) 骨腫瘍 6) 脊椎神経疾患 (1) 脊髄損傷 (2) 脊髄腫瘍 (3) 腰椎椎間板ヘルニア 7) 代謝性疾患 (1) 骨粗鬆症						
4 H	2. 主な検査 1) 画像検査 (X線、CT、MRI、超音波検査) 2) 関節造影、脊髄造影検査 3) 骨密度検査 4) 関節鏡 5) 関節液検査						
5 H	3. 主な治療 1) 保存療法 (1) ギプス包帯法 (2) 副子 (3) 牽引 (4) 関節穿刺 2) 理学療法 3) 手術療法 4) 義肢と装具						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 成人看護学7 脳神経 (医学書院) 系看 専門 成人看護学10 運動器 (医学書院)						

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅳ (血液・造血、アレルギー・膠原病、 感染症)	担当 教員	木藤 克之 新川 雄高 大野 暢宏	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。						
時間	学 習 内 容						
6 H	血液・造血器系 1. 代表的疾患の病態生理 1) 赤血球系の疾患 (1) 貧血 2) 白血球系の疾患 (1) 白血病 3) リンパ系疾患 (1) 悪性リンパ腫 (2) HIV感染症とエイズ 4) 異常タンパク血症 (1) 多発性骨髄腫 5) 出血性疾患 (1) 血友病 (2) 播種性血管内凝固症候群	7 H	アレルギー・膠原病 1. 代表的疾患の病態生理 1) アトピー性皮膚炎 2) 薬物のアレルギー 3) アナフィラキシー 4) 関節リウマチ 5) 全身性エリテマトーデス 6) 全身性硬化症 7) 皮膚筋炎 8) 膠原病類縁疾患	2 H	2. 主な検査 1) 血液検査 2) 免疫学的検査 3) 画像検査	2 H	3. 主な治療 1) 薬物療法 (1) ステロイド・非ステロイド薬 (2) 抗アレルギー薬 (3) 免疫抑制剤 (4) 抗リウマチ薬 2) 免疫吸着療法・血漿交換療法
2 H	2. 主な検査 1) 末梢血検査 2) 骨髄穿刺・生検 3) 出血傾向の検査 4) リンパ節生検						
4 H	3. 主な治療 1) 輸血療法 2) 化学療法 3) 薬物療法 4) 放射線療法 5) 移植療法						

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅳ (血液・造血、アレルギー・膠原病、 感染症)	担当 教員	木藤 克之 新川 雄高 大野 暢宏	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
時間	学 習 内 容						
6 H	<p>感染症</p> <p>1. 感染症とは</p> <p>1) 感染症とは</p> <p>2) 感染が成立する条件</p> <p>3) 感染症の病態生理・症状</p> <p>2. 感染症の診断</p> <p>1) 感染臓器の決定</p> <p>2) 病原微生物の決定</p> <p>3) 主な検査</p> <p>3. 感染症の治療</p> <p>1) 抗菌薬</p> <p>2) その他</p> <p>* 下記感染症については、各疾病治療論に含まれる</p> <p>4. 疾患の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上気道感染</li> <li>・ 下気道感染</li> <li>・ 心血管系感染症</li> <li>・ 菌血症・肺血症</li> <li>・ 消化器感染症</li> <li>・ 肝胆道系感染症</li> <li>・ 尿路感染症・性感染症</li> <li>・ 皮膚軟部組織感染症</li> <li>・ 真菌感染症</li> <li>・ 寄生虫感染症</li> <li>・ HIV感染症、日和見感染</li> <li>・ 多剤耐性菌感染症</li> </ul>						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 成人看護学 4 血液・造血器 (医学書院) 系看 専門 成人看護学 11 アレルギー・膠原病・感染症 (医学書院)						

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論V (感覚、腎泌尿、生殖)	担当 教員	中村 貴士・金田 章真 松吉 恭平・近藤 定彦 納谷 佳男・中島 正敬	単位数	1	時間数	30
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別		2年次・前期	
		有				必修	
学習目標	系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。						
時間	学習内容						
6 H	腎泌尿器系 1. 代表的疾患の病態生理 1) 腎不全 2) 糸球体腎炎 3) ネフローゼ症候群 4) 尿路感染症 5) 尿路結石症 6) 腎腫瘍 7) 膀胱腫瘍 8) 前立腺肥大 9) 前立腺癌	5 H	女性生殖器 1. 代表的疾患と病態生理 1) 外陰の疾患 2) 膣の疾患 3) 子宮の疾患 4) 卵管の疾患 5) 卵巣の疾患 6) 月経異常、機能性子宮出血 7) 更年期障害 8) 乳房の疾患 9) 感染症				
2 H	2. 主な検査 1) 尿検査 2) 腎機能検査 3) X線撮影 4) 超音波検査 5) 核医学的診断法 6) CT、MRI 7) 経尿道的操作および内視鏡検査 8) 尿路水力学的検査 9) 生検	2 H	2. 主な診察・検査 1) 診察 (問診、外診、内診、膣鏡診、直腸診) 2) 頸管粘液検査 3) 細胞診 4) 卵管疎通性検査 5) 内視鏡検査 6) ホルモン測定 7) その他				
2 H	3. 主な治療 1) 食事療法 2) 薬物療法 3) 化学療法 4) ホルモン療法 5) 安静療法 6) 透析療法 (1) 血液透析 (2) 腹膜透析 7) 手術療法 (1) 経尿道的内視鏡手術 (2) 碎石術 (3) 尿路変更術 8) 腎移植	2 H	3. 主な治療 1) 膣および子宮膣内洗浄 2) 放射線療法 3) ホルモン療法 4) 化学療法 5) 手術療法 (1) 子宮切除術 (AT VT ET) (2) 乳房切除術				

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論V (感覚、腎泌尿、生殖)	担当 教員	中村 貴士・金田 章真 松吉 恭平・近藤 定彦 納谷 佳男・中島 正敏	単位数	1	時間数	30	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別		2年次・前期		
		有				必修		
時間	学 習 内 容							
3 H	感覚器系 眼疾患 1. 代表的疾患の病態生理 1) 屈折の異常 2) 白内障・緑内障・網膜剥離 3) 眼底出血 4) 結膜炎 2. 主な検査 1) 視力・屈折・眼圧検査 2) 眼底写真撮影 3. 主な治療 1) 点眼法、洗眼法 2) 手術療法	2 H	皮膚疾患 1. 代表的疾患の病態生理 1) 湿疹・皮膚炎、蕁麻疹 2) 皮膚感染症 (一般細菌、真菌、ウイルス) 3) 悪性腫瘍 4) 熱傷・凍傷 2. 主な検査 1) パッチテスト・皮内反応 2) 皮膚組織生検 3. 主な治療 1) 外用療法 2) 光線療法 3) レーザー照射	3 H	耳、鼻、咽喉頭の疾患 1. 代表的疾患の病態生理 1) 中耳炎 2) 難聴 3) メニエール病 4) 副鼻腔炎アレルギー性鼻炎 5) 上顎癌・喉頭癌 2. 主な検査 1) 聴力検査 2) 平衡機能検査 3) 副鼻腔検査 4) 耳管通気検査 3. 主な治療 1) 点耳および点鼻法 2) 噴霧・塗布・吸入法 3) 手術療法	2 H	歯・口腔の疾患 1. 代表的疾患の病態生理 1) 齦歯および歯髄炎、歯肉炎 2) 舌癌 2. 主な検査 1) 口腔内検査 2) 歯科・口腔外科的検査 3. 主な治療 1) 口腔清掃・歯石除去 2) 齦歯、歯髄炎の治療 3) 手術療法	試験 1 H
成績評価方法	筆記試験 (授業科目評価要領、終了時試験実施要領参照)							
参考文献他	系看 専門 成人看護学 1 2 皮膚 1 3 眼 1 4 耳鼻咽喉科 1 5 歯・口腔 (医学書院) 系看 専門 成人看護学 8 腎・泌尿器 9 女性生殖器 (医学書院)							

## 2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	薬理学	担当 教員	橋本 祐昌	単位数	1	時間数	30	
				受講年次・時期	1年次・後期			
授業形式	講義	実務経験 有		必修・選択別		必修		
学習目標	代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、薬物の取り扱いや管理などについて理解する。							
時間	学 習 内 容							
2 H 3 H	1. 薬理学の基礎知識 1) 薬理学とは 2) 薬理作用 3) 薬物動態 4) 薬物中毒 5) 薬物管理 6) チーム医療としての薬剤師の役割	2 4 H	2. 抗感染症薬 3. 抗がん薬 4. 免疫治療薬 5. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 6. 末梢神経系作用薬 7. 中枢神経系作用薬 8. 心臓血管系作用薬 9. 呼吸器系作用薬 10. 消化器系作用薬 11. 腎泌尿器・生殖器系作用薬 12. 皮膚作用薬 13. 物質代謝作用薬 14. 漢方薬 15. 消毒薬					
試験 1 H								
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)							
参考文献他	系看 専門基礎 薬理学 (医学書院)							

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	微生物学	担当 教員	旦部 幸博	単位数	1	時間数	30
授業形式	講義	実務経験 有		受講年次・時期		1年次・後期	
学習目標	感染症や伝染病の要因として、重要な位置を占める病原微生物の分類や特徴、消毒法、検査法に加え、感染症の変貌についての理解する。						
時間	学習内容						
4 H	1. 微生物学とは 1) 微生物の位置づけ 2) 微生物と人間 3) 微生物の歴史的変遷						
8 H	2. 細菌の性質  3. 真菌の性質  4. 原虫の性質  5. ウイルスの性質						
4 H	6. 感染と感染症 1) 感染のメカニズム 2) 感染防御機構 3) 感染経路						
4 H	7. 感染症の予防 1) 滅菌と消毒 2) ワクチンと予防接種						
4 H	8. 感染症の治療						
5 H	9. 病原微生物 1) 病原細菌と病原真菌 2) ウイルス感染症						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門基礎 微生物学 (医学書院)						

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	臨床検査	担当 教員	児玉 憲一	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	2年次・前期		
授業形式	講義	実務経験 有		必修・選択別	必修		
学習目標	<p>1. 医療における臨床検査の位置づけと意義を理解する。</p> <p>2. 主な臨床検査の性質や検体の採取にあたっての準備や注意事項および検査結果の解釈の仕方を理解する。</p> <p>3. 臨床検査における看護師の役割と、検査に関連して起こりうる医療事故防止の看護師に求められる対応について理解する。</p>						
時間	学 習 内 容						
1 H	1. 医療における臨床検査の意義						
2 H	2. 臨床検査の種類						
2 H	3. 臨床検査の進め方 (流れ)						
1 H	4. 臨床検査における看護師の役割						
8 H	<p>5. 主な臨床検査</p> <p>1) 一般検査</p> <p>2) 血液検査</p> <p>3) (臨床) 化学検査</p> <p>4) 免疫・血清検査、輸血検査</p> <p>5) ホルモン検査</p> <p>6) 微生物検査 (感染症検査)</p> <p>7) 病理検査</p> <p>8) 生理機能検査</p>						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 別巻 臨床検査 (医学書院)						

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	倫理学	担当 教員	西村 和代 西村 紀子 梶田 恵子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	1. 医療の進歩に伴う倫理的課題を学び、倫理的ジレンマと対処について理解できる。 2. 生命倫理について学び、対象者の尊厳といのちについて考えることができる。						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. 倫理とは何か						
2 H	2. 医療倫理の歴史 1) 古代から近代の医療倫理の変遷 2) 現代：患者の権利の時代へ						
4 H	3. 倫理的ジレンマと倫理原則 <u>演習</u> 1) 原則論 2) 物語論、ナラティブ						
6 H	4. 生命倫理の概念 <u>演習</u> 1) 生殖の生命倫理 2) 死の生命倫理 3) 遺伝子診断と治療をめぐる生命倫理 4) 移植医療と生命倫理 5) 再生医療と生命倫理						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 別巻 看護倫理 (医学書院)						

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	臨床判断の基礎	担当 教員	山口 未来人	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	2年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	その場、その時の対象の健康状態の変化に気づき、解釈、反応、省察する臨床判断の考え方を理解する。						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. 臨床判断の定義 1) 臨床判断とは 2) 臨床推論とは 3) 臨床判断能力が必要とされる背景						
6 H	2. 臨床判断のプロセス (タナーの臨床判断モデル) 1) 気づく 2) 解釈する (1) 分析的推論 (2) 直観的推論 (3) 逸話的推論 3) 反応する 4) 省察する 5) コンテクト・背景・関係性						
6 H	3. 臨床判断の実際 <u>演習(事例、場面提示)</u> 1) 気づくトレーニング 2) 解釈 (1) 状況把握、原因、今後の予測 (2) 状況理解をふかめるための追加情報 (3) 患者に必要な看護 3) 省察 (リフレクション) (1) 学生の背景(知識・技術) (2) この時の患者の状況、思い (3) 患者に必要な看護						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他							

3) 健康支援と社会保障制度

授業科目	関係法規	担当 教員	藤野 裕子 山田 悠貴	単位数	1	時間数	15
授業形式	講義	実務経験 有		受講年次・時期		3年次・前期	
学習目標	保健師助産師看護師法を中心に、医事や衛生、社会保障、労働などの関係法令について理解する。						
時間	学習内容						
2 H	1. 法の概念 1) 法とは 2) 法の種類						
6 H	2. 衛生法規 1) 衛生法規の意義 2) 衛生法規の沿革 “医療関係法令” 3) 衛生法規の分類 ・医事法 (医師法・医療法) ・薬務法 ・保健衛生法 ・予防衛生法 ・環境衛生法 ・労働法 ・社会保険法						
6 H	3. 厚生行政のしくみ						
6 H	4. 保健師助産師看護師法 1) 目的 2) 定義 3) 構造と内容						
試験 1 H	5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律 1) 目的 2) 定義 3) 活動内容						
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門基礎 看護関係法令 (医学書院)						

### 3) 健康支援と社会保障制度

授業科目	公衆衛生学	担当 教員	西田 大介	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	3年次・前期		
授業形式	講義	実務経験 有		必修・選択別	必修		
学習目標	人々の健康の保持・増進、疾病予防を目的とし、保健・医療・福祉に関する社会資源の整備と有効な活用を図り、身体的、精神的、社会的に個人と社会の能力を十分に発揮させるための組織や活動内容を理解する。						
時間	学習内容						
3 H	1. 公衆衛生の概念 1) 公衆衛生の意義 2) 公衆衛生の歴史 3) プライマリヘルスケア 4) ヘルスプロモーション 5) 公衆衛生の活動対象	2 H	6. 職場と健康 1) 労働安全衛生法 2) 労働災害・職場の健康管理体制	2 H	7. 感染症とその予防対策 1) 感染症法 2) 感染症の成立要因と感染症の予防 3) 公衆衛生上の重要な感染症	2 H	8. 国際保健 1) 国際保健の担い手 2) 国際保健の共通目標
2 H	2. 公衆衛生のしくみ 1) 政策展開 2) 国・地方自治体の役割 3) 国際保健	3 H	9. 健康危機管理・災害保健 1) 健康危機管理体制 2) 地域保健における健康危機管理 3) 災害保健	2 H	3. 環境と健康 1) 地球規模の環境と健康 2) 身のまわりの環境と健康		
2 H	4. 集団の健康をとらえるための手法 1) 疫学・保健統計						
	5. 学校と健康 1) 学校保健安全法 2) 学校保健活動・健康診断 予防接種						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門基礎 公衆衛生 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)						

3) 社会保障制度と生活者の健康

授業科目	社会福祉	担当 教員	西村 りう子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	2年次・中期		
授業形式	講義	実務経験 有		必修・選択別	必修		
学習目標	社会福祉の発達、理論、社会福祉制度について知るとともに、社会環境の変化の中での国民の福祉ニーズ、そのニーズに応えるための方法や制度、サービスの活用について理解する。						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. 社会保障制度の概念	4 H	7. 所得保障				
2 H	2. 社会福祉の法制度 1) 社会福祉法 2) 福祉六法	3 H	8. 公的扶助 1) 生活保護制度 2) 低所得者対策				
2 H	3. 社会福祉の歴史 1) 社会福祉の成立 2) 前近代の救済 3) 近代の救済	3 H	9. 障害者福祉				
4 H	4. 現代社会の変化と社会保障 1) 現代社会の変化 2) 社会保障・社会福祉の動向 3) 他職種連携	3 H	10. 児童福祉				
4 H	5. 医療保障 1) 医療保障制度 2) 健康保険と国民健康保険 3) 高齢者医療制度						
2 H	6. 介護保障 1) 介護保険制度創設の背景 2) 高齢者福祉と介護保険						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門基礎 社会保障・社会福祉 (医学書院) 社会福祉小六法 (ミネルヴァ書房)						

### 3) 健康支援と社会保障制度

授業科目	リハビリテーション概論	担当 教員	本江 真人 北村 淳 川瀬 智隆	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	2年次・後期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	1. リハビリテーションの理念やリハビリテーション看護の専門性を理解する。 2. チーム医療としてのリハビリテーションの具体的な活動内容を通して、 看護師の役割を理解する。						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. リハビリテーションの歴史と理念 1) リハビリテーションの変遷 2) 障害者の定義 3) 障害の制度 4) 疾病、障害、生活機能の分類						
3 H	2. リハビリテーションにおけるチームアプローチ 3. リハビリテーション看護の概論 1) リハビリテーション看護の概念、機能 2) リハビリテーション看護の方法論 <u>演習 (関節可動域訓練・自動他動運動・松葉杖)</u>						
2 H	4. リハビリテーションを必要とする対象の特徴とその家族の理解						
4 H	5. リハビリテーション看護の実際 1) 新たな生き方の発見に向けたリハビリテーション看護 (1) 障害の受容への働きかけ (2) 自立への歩み・新たな価値観の獲得への支援 2) 自己実現の達成を支えるリハビリテーション看護 (1) QOLの向上に向けた生活行動の再獲得 (2) 生活行動の再獲得に向けた具体的なリハビリテーション						
3 H	3) 障害・状態別リハビリテーション看護 (1) 運動機能障害をもつ人のリハビリテーション看護 (脊髄損傷含む) (2) 認知障害・コミュニケーション (脳神経系) 障害をもつ人のリハビリテーション看護 (3) 感覚器機能 (視覚・聴覚) 障害をもつ人のリハビリテーション看護						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)						

### 3) 健康支援と社会保障制度

授業科目	総合保健医療論	担当 教員	小室 太郎	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	3年次・中期		
授業形式	講義	実務経験 有		必修・選択別	必修		
学習目標	社会福祉、関係法規における学びをつなげるとともに、現代の保健・医療・福祉の抱えている問題点とその問題発生の背景を知ることによって、専門職として社会に貢献する方向性・視点について理解する。						
時間	学 習 内 容						
4 H	1. 医学・医療の変遷 1) 医療の本質と現代医療の特徴 2) 人間の健康・生活の変遷と医療・保健 ・救急医療体制 ・医療変革 ・地域包括医療						
4 H	2. 科学技術の進歩と現代医療 1) がん診療の最前線 2) 移植医療 3) 再生医療 4) 人工臓器 5) 体外受精と出生前診断						
2 H	3. 現代医療の課題 1) 先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ 2) 情報社会と医療						
4 H	4. わが国の医療保障の現状と課題 1) わが国の医療保険制度 2) 国民医療費の動向 3) 医療経済・看護経済 4) 診療報酬の仕組みと看護の対価						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	国民衛生の動向 (厚生労働統計協会) 系看 専門基礎 総合医療論 (医学書院)						

3) 健康支援と社会保障制度

授業科目	健康支援論		担当 教員	福井 美代子・井上 佳代 水口 藍・北川 幹子	単位数	1	時間数	30
授業形式	講義		実務経験		受講年次・時期		2年次・前期	
			有		必修・選択別		必修	
学習目標	地域社会における生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動について理解する。							
時間	学 習 内 容							
4 H	1. 衛生行政活動の概況 1) 地域保健法 2) 保健所の業務・機能 3) 市町村保健センターの業務・機能 (主に保健師の保健活動)			5 H	6. 地域包括ケアシステムと在宅ケア 1) 地域包括ケアシステム 2) ケアマネジメントと看護 3) 関係職種との連携 4) 在宅ケアシステムの実際			
	2. 人間の生涯を通じた健康づくりの意義			6 H	7. 母性・小児における健康支援 1) 母子保健行政のあゆみ ・母子保健法 ・健やか親子21 2) 母子保健対策の現状			
4 H	3. 成人保健の動向と成人の健康保持増進 1) 成人の身体と生活の特徴 2) 健康指標にみる成人の特徴 3) 成人期の保健活動 ・健康日本21 ・健康増進法 ・がん対策基本法				8. 歯科保健 1) 歯科保健の法的根拠 2) ライフステージにおける歯科・口腔保健			
4 H	4. 生活習慣病の早期発見・早期治療 1) 生活習慣病を早期発見するための仕組み 2) メタボリックシンドローム 3) 生活習慣改善の知識 4) 高齢者の医療確保に関する法律			2 H	9. 精神保健 1) 地域生活を支えるためのしくみ 2) 心の健康対策・自殺対策			
4 H	5. 高齢者と社会システム 1) 保健医療、福祉制度の概要 2) 予防重視型システム 3) 医療保険制度の改革 4) 訪問看護制度				10. 障害者保健・難病保健 1) 障害者・難病保健活動に関する法律 2) 地域支援システム			
試験 1 H								
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)							
参考文献他	系看 専門基礎 公衆衛生 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)							

専門分野—基礎看護学

授業科目	基礎看護学概論	担当 教員	西村 洋子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての経験あり					
学習目標	1. 看護の基本となる主要概念（看護、人間、健康、環境）を理解する 2. 地域の中の看護を理解する 3. 看護における倫理についての基礎的知識を理解する						
時間	学 習 内 容						
7 H	1. 看護の概念 1) 看護の変遷 2) 看護の定義（保助看法における看護の定義、理論家にみる看護の定義） 3) 看護の役割と機能	2 H	4. 環境の概念 1) 環境とは 2) 物理・化学・生物学的環境 3) 社会・文化的環境 （家族・地域社会・民族・文化） 4) 適応と対処機制	6 H	2. 人間の概念 1) 看護の対象としての人間 2) 生活者としての人間 3) 各ライフサイクルステージにおける身体的・精神的社会的特徴と発達課題 4) 人間の欲求 5) 対象の心理	3 H	5. 地域における看護 1) 地域における看護の対象 2) チーム医療（多職種連携） 3) 多様な場における看護活動 4) 継続看護（地域包括ケアシステム）
7 H	3. 健康の概念 1) 健康の定義 2) 健康に影響する要因 健康の成立要因 3) 健康水準と看護活動 4) 自己ケアとプライマリーヘルスケア 5) 健康観、クオリティオブライフ	4 H	6. 看護における倫理 1) 職業倫理 2) 看護倫理 3) 医療専門職の倫理規定	試験 1 H			
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	系看 専門 基礎看護学1 看護学概論 （医学書院） 看護覚え書 （現代社）						

専門分野—基礎看護学

授業科目	共通基本技術 (総論・コミュニケーション・感染予防)	担当 教員	川瀬 さゆり 西脇 直美	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての経験あり					
学習目標	1. 看護技術の特徴を理解する 2. 看護におけるコミュニケーションの基礎を理解できる 3. 感染防止の意義を理解し、感染防止対策の基本技術が習得できる						
時間	学 習 内 容						
4 H	1. 基礎看護技術総論 1) 看護技術とは 2) 看護技術の構造 3) 観察・記録・報告の必要性 4) 演習方法						
1 3 H	2. 人間関係を成立・発展させる技術 1) 看護実践における人間関係の必要性 2) 看護におけるコミュニケーション技法 3) 看護にいかすコミュニケーション 4) 看護実践における人間関係の必要性プロセスレコードの考察 5) 看護と人間尊重						
1 2 H	3. 感染防止の技術 <u>2) 5) 演習 (4 H)</u> 1) 感染防止の基礎知識 2) 標準予防策 (スタンダードプリコーション) 3) 感染経路別予防策 4) 洗浄・消毒・滅菌 5) 無菌操作 6) 感染性廃棄物の取り扱い 7) カテーテル関連血流感染対策 8) 針刺し防止策						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 系看 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)						

専門分野—基礎看護学

授業科目	ヘルスアセスメント I (バイタルサイン)	担当 教員	鈴木 里美	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	1年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての経験あり					
学習目標	1. ヘルスアセスメントについて理解できる 2. バイタルサインの意義と看護上の重要性が理解できる 3. バイタルサインの測定ができる						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. ヘルスアセスメントとは						
	2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント						
	3. 全体の外観						
	1) 全身状態・全体印象の把握						
9 H	2) 計測 (身長、体重、腹囲、胸囲、握力)						
	3) バイタルサインの観察とアセスメント						
	①体温						
	②脈拍						
	③呼吸						
	④血圧						
	⑤意識						
3 H	4) バイタルサイン測定の実際 <u>演習 (3 H)</u> 体温、脈拍、呼吸、血圧、パルスオキシメーター						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 基礎看護学2 基礎看護技術 I (医学書院) 系看 専門 基礎看護学3 基礎看護技術 II (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)						

専門分野—基礎看護学

授業科目	ヘルスアセスメントⅡ (フィジカルアセスメント)	担当 教員	松井 麻美・八木 美智子 藤居 紋・山田 みか	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての経験あり					
学習目標	系統別フィジカルイグザミネーションを活用し、対象者の健康状態を的確に判断できる。						
時間	学 習 内 容						
3 H	1. ヘルスアセスメント 1) フィジカルイグザムとは、フィジカルアセスメントとは 2) スクリーニング 3) 系統別のアセスメント						
2 H	2. 身体一般のフィジカルアセスメント 1) 一般状態 ①皮膚 ②指・爪 ③頭部 ④頸部 ⑤顔 ⑥耳 ⑦口腔 ⑧眼 ⑨リンパ節						
6 H	3. 胸部(肺・胸郭)のフィジカルアセスメント 1) 肺・胸郭 ①胸郭の視診・触診・打診 ②音声振とうの触診 ③胸郭・横隔膜の可動性 ④副雑音(連続性ラ音・断続性ラ音) 2) 肺・胸郭 <u>演習(2H)</u>						
6 H	4. 胸部(心臓・血管系)のフィジカルアセスメント 1) 心臓・血管系 ①頸動脈の視診・触診・聴診 ②頸静脈の視診 ③前胸部全体と心尖部の視診・触診 ④I音・II音の識別 ⑤異常心音 ⑥心雑音(収縮期・拡張期) ⑦末梢循環の触診 ⑧浮腫 2) 心臓・血管系 <u>演習(2H)</u>						
4 H	5. 腹部・乳房のフィジカルアセスメント 1) 腹部: 腹部の視診・聴診・触診、腹水 乳房: 乳房、所属リンパ節 2) 腹部・乳房 <u>演習(2H)</u>						
3 H	6. 神経系、筋・骨格筋系のアセスメント 1) 神経系、筋・骨格筋系 ①運動機能(運動麻痺の検査) ②表在知覚・深部知覚 ③深部腱反射・表在性反射 ④小脳機能・平衡機能の検査 ⑤関節可動域の測定 ⑥筋力の評価 2) 神経系、筋・骨格筋系 <u>演習(1H)</u>						
2 H	フィジカルアセスメントの統合						
3 H	フィジカルアセスメントの実際(シミュレーション演習)						
試験1 H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 基礎看護学2 基礎看護技術I (医学書院)						

専門分野—基礎看護学

授業科目	日常生活援助技術 I (環境・活動・休息)	担当 教員	岡田 英恵 川瀬 さゆり	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての経験あり					
学習目標	1. 人間にとっての生活環境と、健康生活における活動・休息の意義を理解する。 2. 生活環境の調整・整備のための基本的技術を習得する。 3. 対象に対する活動・休息の必要性和援助方法を習得する。						
時間	学 習 内 容						
12H	1. 環境調整技術 1) ナイチンゲールと環境 2) 療養生活と環境 <u>(3)(4) 演習 (3H)</u> (1) 療養生活の環境調整 (温度・湿度・換気・採光・臭気・騒音) (2) 環境整備 (3) ベッドメイキング (4) リネン交換 (臥床患者のリネン交換) デモンストレーション						
11H	2. 活動・休息援助技術 1) 活動の援助 <u>(4)(5) 演習 (4H)</u> (1) ボディメカニクスの原理 (2) 体位 (3) 同一体位による弊害 (廃用症候群) (4) 体位変換/体位保持 (安楽物品) (5) 移乗・移送の介助 (車いす・ストレッチャー) 2) 睡眠・休息の援助 (1) 睡眠とは (2) 睡眠のアセスメント						
2H	3. 安楽を促進し、安寧を保つための援助 1) 巻法 2) リラクゼーション						
4H	4. 患者の状況に応じた環境整備 (シミュレーション) <u>演習 (4H)</u>						
試験 1H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 基礎看護学2 基礎看護技術 I (医学書院) 系看 専門 基礎看護学3 基礎看護技術 II (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)						

専門分野—基礎看護学

授業科目	日常生活援助技術Ⅱ (食事・排泄)	担当 教員	片木 美和子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	1年次・後期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての経験あり					
学習目標	1. 人間にとっての食及び排泄の意義とメカニズムが理解できる 2. 食及び排泄の援助を受ける対象の心理を理解する 3. 食及び排泄の援助技術を習得する						
時間	学 習 内 容						
7 H	1. 食事援助技術 1) 食の意義とメカニズム 2) 食の観察とアセスメント 3) 食生活支援 4) 誤嚥予防・食事介助 5) 医療施設で提供される食事の種類と形態						
22 H	2. 排泄援助技術 <u>3) 4) 演習 (4H)</u> <u>5) 演習 (4H)</u> 1) 排泄の意義とメカニズム 2) 排泄の観察とアセスメント 3) 自然排尿・排便の援助 便器・尿器、ポータブルトイレの使い方 4) 排便困難時の援助 浣腸 5) 排尿困難時の援助 導尿 膀胱留置カテーテル						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)						

専門分野—基礎看護学

授業科目	日常生活援助技術Ⅲ (清潔・衣生活)	担当 教員	青木 愛子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての経験あり					
学習目標	1. 人間にとっての衣服、身体清潔の意義を理解する 2. 衣生活の援助技術を習得する 3. 身体清潔の援助技術を習得する						
時間	学 習 内 容						
7 H	1. 衣生活の援助技術 1) 衣服の意義 2) 衣生活のニーズ・アセスメント 3) 衣の選択 4) 臥床患者の寝衣交換 <u>演習(3H)</u>						
22 H	2. 清潔の援助技術 1) 身体清潔の意義 2) 皮膚・粘膜の構造と機能 3) 清潔のニーズ・アセスメント 4) 身体各部の清潔方法 (1) 入浴・シャワー浴・全身清拭の基礎知識 臥床患者の全身清拭 <u>演習(4H)</u> (2) 洗髪・整容の基礎知識 洗髪 <u>演習(3H)</u> (3) 口腔ケア・義歯の基礎知識 口腔ケア・義歯の取り扱い <u>演習(2H)</u> (4) 部分浴・陰部ケアの基礎知識 手浴・足浴・陰部洗浄 <u>演習(3H)</u>						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)						

専門分野—基礎看護学

授業科目	診療に伴う技術Ⅰ (与薬)	担当 教員	山本 はるみ	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	2年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての経験あり					
学習目標	1. 与薬の基礎知識を理解できる 2. 各種与薬方法の看護技術を習得する 3. 与薬時の看護師の役割を理解できる						
時間	学 習 内 容						
5 H	1. 与薬の基礎知識 1) 与薬とは (与薬の種類と目的) 2) 薬物の基本的性質 (剤型と投与経路、薬物動態) 3) 看護師の役割 (正しい与薬、薬の管理、法的根拠)						
2 2 H	2. 援助の基礎知識・援助の実際 1) 経口与薬・口腔内与薬 2) 吸入 3) 点眼・点鼻 4) 経皮的与薬 5) 直腸内与薬 <u>演習 (2 H)</u> 6) 注射 <u>(2)(3) 演習 (4 H)</u> (1) 皮内注射 (2) 皮下注射 (3) 筋肉内注射 (4) 静脈路確保・点滴静脈内注射 ・ワンショット (静脈内注射) ・点滴静脈内注射 <u>演習 (4 H)</u> ・中心静脈カテーテル						
2 H	3. 輸血とは 1) 輸血の種類、副作用、準備、実施、記録、管理						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 系看 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)						

専門分野—基礎看護学

授業科目	診療に伴う技術Ⅱ (診察・検査)	担当 教員	片木 美和子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	2年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての経験あり					
学習目標	1. 診察・検査の目的を理解する 2. 検体検査、生体検査における特徴、看護師の役割が理解できる						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. 診察・検査とは						
	2. 身体計測						
10 H	3. 検査時の看護の役割						
	1) 検体検査						
	(1) 血液検査 (静脈血、動脈血)						
	(2) 静脈血採血 <u>演習 (3 H)</u>						
	(3) 尿検査、便検査						
	(4) 喀痰検査						
	(5) 胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺						
2 H	2) 生体検査						
	(1) エックス線撮影、CT、MRI、核医学						
	(2) 超音波、肺機能検査						
	(3) 内視鏡検査 (上部消化管内視鏡検査、下部内視鏡検査、気管支鏡検査)						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 系看 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護技術プラクティス (学研) 系看 別巻 臨床検査 (医学書院)						

専門分野—基礎看護学

授業科目	看護理論	担当 教員	西村 洋子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	1年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての経験あり					
学習目標	1. 看護における理論を理解する 2. ナイチンゲールの看護に対する考え方を理解する 3. 主要な看護理論家の看護に対する考え方を知る						
時間	学 習 内 容						
4 H	1. 看護理論とは 1) 看護理論とは 2) 看護理論を学ぶ必要性 3) 看護理論の範囲 4) 看護におけるメタパラダイム 5) 看護理論の歴史的変遷 6) 看護理論と看護過程						
4 H	2. ナイチンゲールの看護に対する考え方 1) ナイチンゲールの生涯 2) ナイチンゲールの思想 3) 看護覚え書き						
6 H	3. 主要な看護理論家の看護に対する考え方 1) ヘンダーソン「ニード論」 2) ウイーデンバック「臨床看護での援助技術」 3) ベナー「技術習得モデル」 4) ペプロウ「人間関係の看護論」 5) トラベルビー「人間対人間の関係モデル」 6) ロイ「適応モデル」 7) オレム「セルフケア理論」 8) 薄井坦子「科学的看護論」						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	看護理論 (南江堂) 看護覚え書き (現代社)						

専門分野—基礎看護学

授業科目	看護過程	担当 教員	岡田 英恵	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	1年次・中期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての経験あり					
学習目標	看護過程の意義、展開方法を理解する						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. 看護過程とは 看護過程の意義・定義、看護過程の5つの構成要素						
	2. クリティカルシンキングとは						
8 H	3. 看護診断のためのアセスメントツール ゴードンの機能的健康パターン11項目						
4 H	4. 看護診断の構成要素 1) 看護診断について (1) 看護診断の構成要素とプロセス (2) 看護診断の種類 (3) 看護診断の記述法 (4) 看護診断の優先順位について 2) 共同問題について 3) 関連図について						
4 H	5. 計画 1) 目標・計画 2) その他(クリニカルパス、標準看護計画)						
2 H	6. 実施・評価						
9 H	7. 事例による基礎的な看護過程の展開 1) データベース 2) アセスメント・問題リスト 3) 関連図						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 基礎看護学2 基礎看護技術 I (医学書院) 看護診断関連						

専門分野—基礎看護学

授業科目	臨床看護総論	担当 教員	杉山 順哉	単位数	1	時間数	30
			佐々木 光隆 佐々木 久栄				
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	1年次・後期		
		看護師としての経験あり					
学習目標	1. 健康状態の経過別にあわせた看護の基礎知識について理解できる 2. 症状にあわせた看護の基礎知識を理解できる 3. 治療処置に伴う看護の基礎知識を理解できる						
時間	学 習 内 容						
8 H	1. 健康状態の経過別に基づく看護 1) 急性期の看護 2) 慢性期の看護 3) 回復期の看護 4) 終末期の看護						
12 H	2. 主要な症状を示す対象への看護 1) 呼吸に関連する症状を示す対象への看護 <u>演習 (2 H)</u> (1) 酸素療法 (2) 吸入 2) 体温に関連する症状を示す対象への看護 (1) 発熱時 (2) 低体温時 3) 栄養や代謝に関連する症状を示す対象への看護 非経口的栄養摂取の援助 (1) 経管栄養法の基礎知識 (2) 経鼻経管栄養法 (胃管挿入、栄養剤注入) <u>演習 (2 H)</u> 4) 安楽に関連する症状を示す対象への看護 (1) 痛み (2) 嘔気・嘔吐						
9 H	3. 治療・処置を受ける対象への看護 1) 化学療法と看護 2) 放射線療法と看護 3) 手術療法と看護 4) 医療機器と看護 ・輸液ポンプ・シリンジポンプ・十二誘導心電図 <u>演習 (2 H)</u> ・人工呼吸器・除細動器・モニター心電図						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 基礎看護学4 臨床看護総論 (医学書院) 系看 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護過程に沿った対症看護 (学研) 看護技術プラクティス (学研)						

専門分野—基礎看護学

授業科目	臨床看護技術	担当 教員	青木 愛子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	1年次・後期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての経験あり					
学習目標	1. 1年次で習得した看護技術を活用し、対象の状況・状態を把握し、援助の方法を考える 2. リフレクションを活用し、状態把握した対象に必要な看護援助を実践できる						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. 看護技術の自己評価						
	1) 共通基本技術						
	2) 日常生活援助技術						
6 H	2. 看護技術の習得						
	1) 原理・原則に基づく技術						
	2) 安全・安楽に基づく技術						
	3) 対象に応じた技術						
	4) 対象の理解						
試験 1 H	3. 実技試験 (状況設定)						
	(1) 全身状態の観察						
	(2) バイタルサインの測定						
	(3) 看護援助の方法を考える						
2 H	4. リフレクション						
	実践方法の具体化						
4 H	5. シミュレーション						
	対象に応じた看護援助の実践 <u>演習 (4 H)</u>						
成績評価方法	実技試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 系看 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)						

専門分野—基礎看護学

授業科目	看護研究・看護倫理	担当 教員	秋吉 美典 八田 亜希子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	3年次・前期		
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての経験あり					
学習目標	1. 看護研究の基本的知識を習得し、質の高い看護を探究する方法を理解する 2. 看護における倫理的問題について理解する 3. 倫理的ジレンマについて、倫理原則を用いて分析する						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. 看護における実践と研究 1) 看護研究とは 2) 看護研究の意義 3) 看護における研究と理論  2. 研究の種類 1) 質的なアプローチの研究 2) 量的なアプローチの研究	4 H	1. 看護倫理を学ぶ意義 2. 専門職に求められる倫理 1) 看護の倫理原則 2) ICN看護師の倫理綱領 3) 看護職の倫理綱領 4) 保健師助産師看護師法と倫理				
2 H	3. 研究の進め方 1) 研究テーマ 2) 研究計画書 3) データ収集と分析 4) 研究発表	4 H	3. 倫理問題へのアプローチ 1) 看護実践における倫理的問題の特徴 2) 倫理的問題へのアプローチ法 (1) Jonsenらの症例検討シート (2) トンプソン&トンプソンの意思決定のための10ステップモデル (3) サラ・フライの看護実践における倫理的分析と意思決定のためのモデル				
2 H	4. ケーススタディ 1) ケーススタディとは 2) ケーススタディの進め方	7 H	4. 事例分析 1) 自己の看護実践で生じた倫理的ジレンマの分析 2) 発表				
9 H	5. 文献検索、クリティークの実際 1) 文献検索の方法、文献の読み方 2) 倫理的配慮 3) 論文の構成、抄録の構成 4) 講評 5) 発表の意義・目的						
成績評価方法	課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	ひとりで学べる看護研究 (照林社) 系看 別巻 看護倫理 (医学書院)						

## 看護技術(各看護学)の履修状況と技術水準 (学内)

◆卒業時の到達レベル (演習) I:モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる。 II:モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる。

◆履修状況 △: 講義 ○: デモンストレーションのみ ●: 演習(個人・グループ) ☆: 実技試験

項目	技術の種類	国の水準	学校水準	履修状況	基礎	成人	老年	小児	母性	精神	統合	地域在宅
1. 環境調整技術	快適な療養環境の整備	I	I	●	●							
	臥床患者のリネン交換	I	I	○	○							
2. 食事の援助技術	食事介助(嚥下障害のある患者を除く)	I	I	●	△		●					
	食事指導	II	II	●	●							
	経管栄養法による流動食の注入	I	I	●	●							
	経管胃チューブの挿入	I	I	●	●							
3. 排泄援助技術	排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)	I	I	●	●							
	膀胱留置カテーテルの管理	I	I	●	●							
	導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入	II	II	●	●							
	浣腸	I	I	●	●							
	摘便	I	II	●			●					
	ストーマ管理	II	II	●		△						●
4. 活動・休息援助技術	車椅子での移送	I	I	●	●							
	歩行・移動介助	I	I	●	●							
	移乗介助	I	I	●	●							
	体位変換・保持	I	I	●	●							
	自動・他動運動の援助	I	I	●								●(リハビリテーション概論)
	ストレッチャー移送	I	I	●	●							
5. 清潔・衣生活援助技術	足浴・手浴	I	I	●	●							
	整容	I	I	●	●							
	点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	I	I	●	●							
	入浴・シャワー浴介助	I	I	●	●							●
	陰部の保清	I	I	●	●							
	清拭	I	I	●	●							
	洗髪	I	I	●	●							●
	口腔ケア	I	I	●	●		●					
6. 呼吸・循環を整える技術	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	I	II	△	△	△						
	新生児の沐浴・清潔	I	I	●	●					●		
	体温調節の技術	I	I	△	△							
	酸素吸入療法の実施	I	I	●	●							
	ネブライザーを用いた気道内加湿	I	I	●	●							
7. 創傷管理技術	口腔内・鼻腔内吸引	II	II	●		●						
	気管内吸引	II	II	●		●						
	体位ドレナージ	I	I	●		●						
	褥瘡予防技術	II	II	●	●							
	創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)	II	II	●		●						
8. 与薬の技術	ドレーン類の挿入部の処置	II	II	△		△						
	経口薬(パッカ錠、内服薬、舌下錠)の投与	II	II	△	△							
	経皮・外用薬の投与	I	I	△	△							
	坐薬の投与	II	II	●	●							
	皮下注射	II	II	●	●							
	筋肉内注射	II	II	●	●							
	静脈路確保・点滴静脈内注射	II	II	●	●							
	点滴静脈内注射の管理	II	II	●	●			●				
	薬剤等の管理(毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む)	II	II	△	△							
9. 救命救急処置	輸血の管理	II	II	△	△							
	救急時の応援要請	I	I	●								●
	一時救命処置(Basic Life Support:BLS)	I	I	●								●
10. 症状、生体機能管理技術	止血法の実施	I	I	●								●
	バイタルサインの測定	I	I	☆	☆			●				
	身体計測	I	I	●	△			●				
	フィジカルアセスメント	I	I	●	●							
	検体(尿、血液等)の取扱い	I	I	●	●							
	簡易血糖測定	II	II	●		●						
11. 感染予防技術	静脈血採血	II	II	●	●							
	検査の介助	I	II	●	△			●				
	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗い	I	I	●	●							
	必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱	I	I	●	●							
	使用した器具の感染防止の取扱い	I	I	●	●							
	感染性廃棄物の取扱い	I	I	●	●							
12. 安全管理技術	無菌操作	I	I	●	●							
	針刺し事故の防止・事故後の対応	I	I	●	●							
	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	I	I	△								△
	患者の誤認防止策の実施	I	I	●	●							
	安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)	I	I	●	●							●
	放射線の被曝防止策の実施	I	II	△	△							
13. 安楽確保の技術	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施	II	II	△	△							
	医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等)の操作・管理	II	II	●	●							
	安楽な体位の調整	I	I	●	●							
13. 安楽確保の技術	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	I	I	△	△	△						
	精神的安寧を保つためのケア	I	I	△	△					△		

専門分野-基礎看護技術の構築

授業科目	単位	時間	学年	項目	演習項目
共通基本技術 (総論・コミュニケーション・感染予防)	1	30	1	基礎看護技術総論 コミュニケーション技術 カウンセリングの基礎 感染予防技術	プロセスレコードの考察 スタンダードプリコーション 感染性廃棄物の取り扱い 無菌操作
ヘルス アセスメントⅠ (バイタルサイン)	1	15	1	症状、生体機能管理技術	バイタルサイン測定の実際 (体温、脈拍、呼吸、血圧、パルスオキシメーター)
ヘルス アセスメントⅡ (フィジカルアセスメント)	1	30	2	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントの実際 胸部(肺・胸郭)のフィジカルイグザム 胸部(心臓・血管系)のフィジカルイグザム 腹部のフィジカルイグザム 乳房のフィジカルイグザム 神経系のフィジカルイグザム
日常生活援助技術Ⅰ (環境・活動・休息)	1	30	1	環境調整技術 活動・休息援助技術 患者の状況に応じた環境整備	療養生活環境調整 (病床整備) ベッドメイキング リネン交換(臥床患者のリネン交換) ボディメカニクスの原理 体位変換・体位保持(安楽物品) 移乗・移送(車椅子・ストレッチャー) シミュレーション
日常生活援助技術Ⅱ (食事・排泄)	1	30	1	食事援助技術 排泄援助技術	便器・尿器 ポータブルトイレの使い方 膀胱留置カテーテル 浣腸 導尿
日常生活援助技術Ⅲ (清潔・衣生活)	1	30	1	清潔援助技術 衣生活援助技術	部分浴・陰部ケア 清拭、洗髪・整容 口腔ケア(義歯の取り扱いを含む) 臥床患者の寝衣交換
診療に伴う技術Ⅰ (与薬)	1	30	2	与薬の技術	直腸内与薬 皮下・筋肉内注射 静脈路確保・点滴静脈内注射 ワンシヨット(静脈内注射) 点滴静脈内注射
診療に伴う技術Ⅱ (診察・検査)	1	15	2	検体検査	静脈血採血
臨床看護総論	1	30	1	主要な症状を示す対象への看護 治療・処置を受ける対象への看護	酸素吸入 吸入 経鼻経管栄養法 胃管挿入、栄養剤注入 輸液ポンプ、シリンジポンプ、十二誘導心電図
臨床看護技術	1	15	1	看護技術の自己評価	対象に応じた看護援助の実践
看護過程	1	30	1	看護過程	事例展開
看護研究・看護倫理	1	30	3	看護研究 看護倫理	文献検索 事例分析

専門分野—基礎看護学

授業科目	基礎看護学実習 I (生活者と生活環境・コミュニケーション)	担当 教員	岡田 英恵	単位数	2	時間数	80														
				受講年次・時期	1年次・後期																
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修																
		看護師としての臨床経験あり																			
学習目的	看護の対象や看護の場を理解し、看護を実践するための基礎的な能力を養う。																				
学習活動		内容																			
1. 地域で生活を送っている人々の生活と健康について理解する。		<table border="0"> <tr> <td>1. 施設的环境</td> <td>6. 生活者の健康に対する思い・考え</td> </tr> <tr> <td>2. 地域で生活する人</td> <td>7. コミュニケーション技術</td> </tr> <tr> <td>3. 地域での生活状況</td> <td>8. 施設オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>4. 施設での生活状況</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 生活者の身体状況</td> <td></td> </tr> </table>						1. 施設的环境	6. 生活者の健康に対する思い・考え	2. 地域で生活する人	7. コミュニケーション技術	3. 地域での生活状況	8. 施設オリエンテーション	4. 施設での生活状況		5. 生活者の身体状況					
1. 施設的环境	6. 生活者の健康に対する思い・考え																				
2. 地域で生活する人	7. コミュニケーション技術																				
3. 地域での生活状況	8. 施設オリエンテーション																				
4. 施設での生活状況																					
5. 生活者の身体状況																					
2. 対象の療養生活を知り、看護師とともに環境調整をする。		<table border="0"> <tr> <td>1. 対象の病室環境</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 対象の病床環境</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 対象の身体の状態</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 安全・安楽な環境</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 対象のニーズに応じた病床環境</td> <td></td> </tr> </table>						1. 対象の病室環境		2. 対象の病床環境		3. 対象の身体の状態		4. 安全・安楽な環境		5. 対象のニーズに応じた病床環境					
1. 対象の病室環境																					
2. 対象の病床環境																					
3. 対象の身体の状態																					
4. 安全・安楽な環境																					
5. 対象のニーズに応じた病床環境																					
3. 看護師とともに行動し、療養生活をしている対象を理解する。		<table border="0"> <tr> <td>1. 対象の概要の把握</td> <td>8. 現在の生活状況</td> </tr> <tr> <td>2. バイタルサイン測定</td> <td>9. 療養生活に対する思い</td> </tr> <tr> <td>3. 年齢、性別、医学的診断名</td> <td>10. 症状、治療、検査に対する思い</td> </tr> <tr> <td>4. 主訴、現病歴</td> <td>11. コミュニケーション技術</td> </tr> <tr> <td>5. 身体の変化（解剖生理学的視点から）</td> <td>12. 意図的な情報収集</td> </tr> <tr> <td>6. 症状</td> <td>13. 一日の過ごし方</td> </tr> <tr> <td>7. 入院前の生活状況</td> <td>14. 生活の変化に対する思い</td> </tr> </table>						1. 対象の概要の把握	8. 現在の生活状況	2. バイタルサイン測定	9. 療養生活に対する思い	3. 年齢、性別、医学的診断名	10. 症状、治療、検査に対する思い	4. 主訴、現病歴	11. コミュニケーション技術	5. 身体の変化（解剖生理学的視点から）	12. 意図的な情報収集	6. 症状	13. 一日の過ごし方	7. 入院前の生活状況	14. 生活の変化に対する思い
1. 対象の概要の把握	8. 現在の生活状況																				
2. バイタルサイン測定	9. 療養生活に対する思い																				
3. 年齢、性別、医学的診断名	10. 症状、治療、検査に対する思い																				
4. 主訴、現病歴	11. コミュニケーション技術																				
5. 身体の変化（解剖生理学的視点から）	12. 意図的な情報収集																				
6. 症状	13. 一日の過ごし方																				
7. 入院前の生活状況	14. 生活の変化に対する思い																				
4. 看護師の関わりを参考にし、関係性を築くためのコミュニケーション手段について考える。		<table border="0"> <tr> <td>1. コミュニケーション技術</td> <td>3. 尊重した態度</td> </tr> <tr> <td>1) 対象への関心</td> <td>1) 看護師としての話し方</td> </tr> <tr> <td>2) 対象の思いへの共感</td> <td>2) 看護師としての聴き方</td> </tr> <tr> <td>3) 傾聴</td> <td>3) 環境への配慮</td> </tr> <tr> <td>4) 感じたり、考えたりしたことの表現</td> <td>4) プライバシーの保持</td> </tr> <tr> <td>2. 対象の立場、状況</td> <td>5) 約束の厳守</td> </tr> </table>						1. コミュニケーション技術	3. 尊重した態度	1) 対象への関心	1) 看護師としての話し方	2) 対象の思いへの共感	2) 看護師としての聴き方	3) 傾聴	3) 環境への配慮	4) 感じたり、考えたりしたことの表現	4) プライバシーの保持	2. 対象の立場、状況	5) 約束の厳守		
1. コミュニケーション技術	3. 尊重した態度																				
1) 対象への関心	1) 看護師としての話し方																				
2) 対象の思いへの共感	2) 看護師としての聴き方																				
3) 傾聴	3) 環境への配慮																				
4) 感じたり、考えたりしたことの表現	4) プライバシーの保持																				
2. 対象の立場、状況	5) 約束の厳守																				
5. オリエンテーションや看護師とともに行動しながら、病院での療養生活を支える人々とその活動を理解する。		<table border="0"> <tr> <td>1. 看護師の活動</td> <td>6. 24時間継続看護</td> </tr> <tr> <td>2. 活動の意味づけ</td> <td>7. チーム医療</td> </tr> <tr> <td>3. 活動が対象に与える影響</td> <td>8. 各職種の役割・機能</td> </tr> <tr> <td>4. 報告</td> <td>9. 多職種の連携・協働</td> </tr> <tr> <td>5. 看護チーム内での情報の共有</td> <td>10. 多職種の中の看護の役割</td> </tr> </table>						1. 看護師の活動	6. 24時間継続看護	2. 活動の意味づけ	7. チーム医療	3. 活動が対象に与える影響	8. 各職種の役割・機能	4. 報告	9. 多職種の連携・協働	5. 看護チーム内での情報の共有	10. 多職種の中の看護の役割				
1. 看護師の活動	6. 24時間継続看護																				
2. 活動の意味づけ	7. チーム医療																				
3. 活動が対象に与える影響	8. 各職種の役割・機能																				
4. 報告	9. 多職種の連携・協働																				
5. 看護チーム内での情報の共有	10. 多職種の中の看護の役割																				
成績評価方法	臨地実習の評価要領、基礎看護学実習 I 評価基準に準ずる																				

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ (対象理解・日常生活援助)	担当 教員	片木 美和子	単位数	2	時間数	80		
				受講年次・時期		1年次・後期			
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修				
		看護師としての臨床経験あり							
学習目的	病院での療養生活を送る看護の対象を理解し、看護を実践するための基礎的な能力を養う。								
学習活動		内容							
1. 患者を理解するために必要な情報を意図的に収集し、看護の視点をふまえ、患者を理解できる。		<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">                     1. 心身の状態                      1) 発達段階                      2) 健康の段階                      3) 疾患・治療                      4) 症状                      5) 栄養状態                      6) 排泄機能                      7) 活動レベル                      8) 入院・治療に対する思い                 </td> <td style="vertical-align: top;">                     2. 生活の変化                      1) 入院前の生活状況                      (家族構成、キーパーソン、社会的役割)                      2) 現在の生活状況                      3) 生活の変化に対する思い                 </td> </tr> </table>						1. 心身の状態 1) 発達段階 2) 健康の段階 3) 疾患・治療 4) 症状 5) 栄養状態 6) 排泄機能 7) 活動レベル 8) 入院・治療に対する思い	2. 生活の変化 1) 入院前の生活状況 (家族構成、キーパーソン、社会的役割) 2) 現在の生活状況 3) 生活の変化に対する思い
1. 心身の状態 1) 発達段階 2) 健康の段階 3) 疾患・治療 4) 症状 5) 栄養状態 6) 排泄機能 7) 活動レベル 8) 入院・治療に対する思い	2. 生活の変化 1) 入院前の生活状況 (家族構成、キーパーソン、社会的役割) 2) 現在の生活状況 3) 生活の変化に対する思い								
2. 患者と自己の発する言葉の意味や感情の理解を深めながら、援助的關係(患者—看護師關係)を形成するための、コミュニケーションを実践する。		<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">                     1. 患者への関心                      2. 患者の立場や状況を把握                      3. 尊重した態度                      4. プライバシーの保持                      5. 約束の遵守                      6. 患者との関わりについての振り返り                      7. 振り返ったことを次の関わりに活用                 </td> </tr> </table>						1. 患者への関心 2. 患者の立場や状況を把握 3. 尊重した態度 4. プライバシーの保持 5. 約束の遵守 6. 患者との関わりについての振り返り 7. 振り返ったことを次の関わりに活用	
1. 患者への関心 2. 患者の立場や状況を把握 3. 尊重した態度 4. プライバシーの保持 5. 約束の遵守 6. 患者との関わりについての振り返り 7. 振り返ったことを次の関わりに活用									
3. 健康障害を持ちながら入院生活を送る患者のニーズに応じた看護を実践する。		<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">                     1. 看護の倫理原則                      1) 実施に向けての説明と同意                      2) 生活援助に対する患者の思い                      3) プライバシーの配慮                      4) 患者の好み、生活様式                      5) 患者の希望、ニーズ                      6) 患者の信条、信仰                      2. 患者の状態・状況                      1) 援助の目的の明確化                      2) 患者の状態、状況の確認                      3) 援助方法の判断                      4) 患者の反応の確認                      5) 患者の安全への配慮                      6) 場面に適したコミュニケーション技術                      7) 患者の状態、状況に合った援助                      8) 報告・記録                 </td> <td style="vertical-align: top;">                     3. 援助の振り返り                      1) 実施した援助の振り返り                      2) 患者にとっての援助の意味                      3) 患者の変化                      4) より適切な援助に向けての課題の明確化                      5) 援助方法の変更                 </td> </tr> </table>						1. 看護の倫理原則 1) 実施に向けての説明と同意 2) 生活援助に対する患者の思い 3) プライバシーの配慮 4) 患者の好み、生活様式 5) 患者の希望、ニーズ 6) 患者の信条、信仰 2. 患者の状態・状況 1) 援助の目的の明確化 2) 患者の状態、状況の確認 3) 援助方法の判断 4) 患者の反応の確認 5) 患者の安全への配慮 6) 場面に適したコミュニケーション技術 7) 患者の状態、状況に合った援助 8) 報告・記録	3. 援助の振り返り 1) 実施した援助の振り返り 2) 患者にとっての援助の意味 3) 患者の変化 4) より適切な援助に向けての課題の明確化 5) 援助方法の変更
1. 看護の倫理原則 1) 実施に向けての説明と同意 2) 生活援助に対する患者の思い 3) プライバシーの配慮 4) 患者の好み、生活様式 5) 患者の希望、ニーズ 6) 患者の信条、信仰 2. 患者の状態・状況 1) 援助の目的の明確化 2) 患者の状態、状況の確認 3) 援助方法の判断 4) 患者の反応の確認 5) 患者の安全への配慮 6) 場面に適したコミュニケーション技術 7) 患者の状態、状況に合った援助 8) 報告・記録	3. 援助の振り返り 1) 実施した援助の振り返り 2) 患者にとっての援助の意味 3) 患者の変化 4) より適切な援助に向けての課題の明確化 5) 援助方法の変更								
成績評価方法	臨地実習の評価要領、基礎看護学実習Ⅱ評価基準に準ずる								

専門分野—地域・在宅看護論

授業科目	地域と暮らし	担当 教員	佐々木 久栄	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	1年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別	必修		
学習目標	人々が暮らす地域と暮らしについて理解する。						
時間	学 習 内 容						
6 H	1. 暮らしとは 1) 暮らしを構成するもの 2) 1人ひとり異なる暮らし (1) 自分の暮らしについて						
8 H	2. 暮らしと健康の関係 1) 暮らしのなかで生じる健康問題とその影響						
試験 1 H	3. 地域とは 1) 地域の定義 2) 地域の特徴 3) 地域の多様性 (1) 自分の暮らす地域について (演習・発表)						
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領)						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 地域・在宅看護論① (メディカ出版)						

専門分野—地域・在宅看護論

授業科目	家族看護	担当 教員	廣田 一哉	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	2年次・前期		
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	<p>1. 家族という集団がもつ特徴について理解する。</p> <p>2. 家族を看護の対象ととらえ、家族を支援する方法について理解する。</p>						
時間	学 習 内 容						
14H	<p>1. 家族看護とは</p> <p>1) 家族看護の特徴と理念</p> <p>(1) 家族看護の必要性</p> <p>(2) 家族看護の発展と変遷</p> <p>(3) 家族看護の特徴</p> <p>(4) 家族看護の理念</p> <p>2) 家族看護の実践の場面</p> <p>(1) 家族員が疾患や障がいをもつ家族</p> <p>(2) ライフサイクルと家族</p> <p>(3) コミュニティと家族</p> <p>2. 家族看護の対象理解</p> <p>1) 家族とは</p> <p>2) 家族構造</p> <p>3) 家族機能</p> <p>4) 現代の家族とその課題</p> <p>3. 家族看護を支える理論と介入法</p> <p>1) 家族を理解するための理論</p> <p>(1) 家族発達理論</p> <p>(2) 家族システム理論</p> <p>2) 家族の変化を把握するための理論 (家族ストレス対処理論)</p> <p>3) 家族に変化をもたらすための介入</p> <p>(1) 家族療法</p> <p>(2) 家族を支える介入</p> <p>4. 家族看護の実際</p> <p>1) 病気の急変に直面している対象の家族</p> <p>2) 長期にわたり病と付き合っている対象の家族</p> <p>3) 終末期を迎える対象の家族</p>						
試験1H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領)						
参考文献他	系看 別巻 家族看護学 (医学書院)						

専門分野—地域・在宅看護論

授業科目	地域・在宅看護概論 (地域包括ケアシステムの中の看護)	担当 教員	廣田 一哉	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 地域・在宅看護の基盤となる概念を理解する。 2. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割について理解する。						
時間	学 習 内 容						
15H	1. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護 1) 地域包括ケアシステムとは 2) 地域共生社会とは 3) 地域包括支援センターの機能と役割  2. 地域・在宅看護の概念 1) 地域・在宅看護の背景 2) 地域・在宅看護の基盤 3) 地域療養を支える在宅看護の役割・機能  3. 地域・在宅療養者と家族の支援 1) 地域・在宅看護の対象者 2) 在宅療養の場における家族の特徴と家族への看護  4. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 1) 療養の場の移行に伴う看護 2) 生活の場に応じた看護とサービス提供機関 3) 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関の連携 4) 在宅看護におけるケースマネジメント / ケアマネジメント  5. 地域・在宅看護における倫理 1) 在宅看護特有の倫理問題 2) 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源						
14H	6. 地域療養を支える制度 1) 医療保険制度 2) 介護保険制度 3) 後期高齢者医療制度  7. 在宅療養を支える訪問看護 1) 訪問看護の特徴 2) 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 3) 訪問看護サービスの展開 4) 訪問看護の記録 5) 訪問看護における多職種・多機関の連携						
試験1H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領)						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 地域・在宅看護論① (メディカ出版)						

専門分野—地域・在宅看護論

授業科目	地域・在宅看護支援論 I (地域の人々の健康を守る看護)	担当 教員	片木 美和子 真壁 知枝	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	地域の人々の健康の保持増進・疾病の予防に向けた看護について理解する。						
時間	学 習 内 容						
6 H	1. ヘルスプロモーションと看護 1) ヘルスプロモーションと健康政策 2) ヘルスプロモーションにおける看護の対象と活動の場 3) ヘルスプロモーションにおける看護の役割  2. 健康教育(指導)に必要な考え方 1) 健康学習の特徴 2) 健康行動に活用する理論 3) フォーマルサポートとインフォーマルサポート 4) ヘルスリテラシー						
4 H	3. 地域で暮らす人々へのヘルスプロモーション 1) 生活習慣病におけるヘルスプロモーション (1) 特定健康診査の受診 (2) 保健指導の実際 (事例) 2) 悪性新生物 3) ストレス						
4 H	4) 高齢者のヘルスプロモーション (事例) (1) 介護予防、認知症予防 (2) 暮らしを支える支援						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領)						
参考文献他	新体系 看護学全書 別巻 ヘルスプロモーション (メヂカルフレンド社)						

専門分野—地域・在宅看護論

授業科目	地域・在宅看護支援論Ⅱ (療養生活を支える看護)	担当 教員	佐々木 久栄・北川 理恵 伊部 恵美子・笠原 照江	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	2年次・後期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 生活の場における訪問看護技術について理解する。 2. 医療管理を必要とする療養者の看護について理解する。 3. 療養者の状態に応じた看護の方法について理解する。						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. 生活の場における訪問看護技術 1) 訪問看護における留意点 2) 訪問マナーの基本						
7 H	2. 日常生活を支える看護技術 1) 在宅療養の場における移動・移乗技術の特徴と援助のポイント (1) 住環境のアセスメント (2) 住環境の整備に活用できる社会資源 (住宅改修・福祉用具) 2) 在宅療養の場における清潔援助の特徴とポイント 3) 在宅療養の場における援助の実際 <u>演習 (3 H)</u> (1) 清潔の援助           入浴介助・洗髪 (2) 排泄の援助           ストーマ管理						
14 H	3. 療養生活を支える看護技術 (医療ケア) 1) 在宅酸素療法 (HOT) を必要とする療養者の看護 2) 在宅人工呼吸療法・非侵襲的陽圧換気療法を必要とする療養者の看護 3) 在宅中心静脈栄養法を必要とする療養者の看護 4) 服薬管理を必要とする療養者の看護 5) 尿道留置カテーテルを挿入されている療養者の看護 6) 人工肛門・尿管皮膚瘻・腎瘻の管理が必要な療養者の看護 7) 褥瘡の予防とケアが必要な療養者の看護						
6 H	4. 在宅療養における対象に応じた看護 1) 様々な状態にある療養者と家族の看護 難病 (ALS・パーキンソン病)、認知症高齢者、小児の疾患、精神疾患など 2) ターミナル期にある療養者と家族の看護						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領)						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 地域・在宅看護論② (メディカ出版)						

専門分野—地域・在宅看護論

授業科目	地域・在宅看護支援論Ⅲ (事例展開)	担当 教員	佐々木 久栄	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	3年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別	必修		
学習目標	終末期にある療養者と家族の療養生活を支える看護の方法について理解する。						
時間	学 習 内 容						
14H	≪事例展開≫ 終末期(がん)の療養者と家族に対する在宅看護の事例展開 1. 事例展開の学習の視点 事例紹介 2. 療養者と家族に対する看護の視点 3. アセスメント 4. 看護上の問題の明確化 5. 社会資源の活用とそれぞれの連携(生活関連図) 6. 看護計画						
試験1H							
成績評価方法	課題、筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領)						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 地域・在宅看護論① (メディカ出版) 在宅療養を支える技術 地域・在宅看護論② (メディカ出版)						

専門分野—地域・在宅看護論

授業科目	地域・在宅看護論実習 I (健康と生活の支援)	担当 教員	佐々木 久栄	単位数	1	時間数	40
				受講年次・時期	2年次・前期		
授業形式	臨地実習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別	必修		
学習目的	<p>1. 地域で暮らす人々の健康と生活の支援について理解する。</p> <p>2. 地域で暮らす人々の健康と生活支援に必要な保健・医療・福祉チームの連携と看護師の役割について理解する。</p>						
学習活動		内容					
1. 地域の事業に参加し、人々の健康と安心した暮らしを支えるための支援について理解する。		<p>1. 地域特性</p> <p>2. 地域共生社会</p> <p>3. 地域包括ケアシステム</p> <p>4. 生活の場</p> <p>5. 多様な健康レベル</p> <p>6. ライフステージ、ライフイベント、生活歴</p> <p>7. 健康ニーズ</p> <p>8. 施設での生活状況</p> <p>9. 法律・制度・各種保険 (介護保険・医療保険等)</p> <p>10. 社会福祉協議会の役割と機能</p> <p>11. 施設におけるサービス</p> <p>1) 自立支援</p> <p>2) 介護予防</p> <p>3) 生活支援</p> <p>4) 作業訓練</p>					
2. 地域の事業に参加し、人々の健康と安心した暮らしを支えるために必要な多職種との役割と連携の実際について理解する。		<p>1. 地域包括ケアシステムにおける多機関、多職種の役割</p> <p>2. 地域包括ケアシステムにおける多機関、多職種の連携・協働</p> <p>3. 施設における多職種の情報共有、連絡方法</p> <p>4. 施設における多職種の協働</p> <p>5. 多職種の中における看護師の役割</p> <p>6. 看護師の活動の場の拡大・多様化</p>					
成績評価方法		臨地実習の評価要領、在宅看護論実習評価基準に準ずる。					

専門分野—地域・在宅看護論

授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅱ (ヘルスプロモーション、 在宅療養者への看護)	担当 教員	佐々木 久栄	単位数	2	時間数	80
				受講年次・時期	3年次・全期		
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	1. 地域で暮らす人々の健康支援について理解する。 2. 在宅で生活する療養者とその家族の療養生活を支える看護について理解し、療養生活に応じた看護が実施できる。						
学習活動	内容						
1. 地域の事業を通して地域の人々に対する健康支援の実際について理解する。	1. 地域社会 2. 地域保健の対象 3. 地域保健活動の法的根拠 4. 市町村保健センターの役割と機能 5. 市町村保健センターの事業に参加 1) 母子保健事業 2) 成人保健事業 3) 歯科保健事業 4) 精神保健事業 6. 地域における健康課題 7. 健康の保持・増進・予防のための看護 8. 地域で暮らす人々のヘルスプロモーション 9. 第1次、第2次、第3次予防 10. ハイリスクアプローチ（生活習慣病予防） 11. 地域包括ケアシステム 12. 地域包括支援センターの役割と機能 13. 地域包括支援センターの事業に参加 14. 地域支援事業 1) 介護予防・日常生活支援総合事業 2) 包括的支援事業 3) 任意事業						
2. 訪問看護活動に参加し、在宅療養者と家族が必要な支援を受けながら生活している状況を理解する。	1. 現病歴 2. 健康状態 3. 身体の状態・ADL 4. 障害高齢者の日常生活自立度判定基準 5. 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準 6. 訪問看護指示書内容 7. 訪問看護計画書内容 8. ケアプラン内容 9. 生活歴・生活習慣・IADL 10. 生活者の視点 11. 自立・自律支援 12. その人らしさ・QOL 13. 家族構成・家族のサポート体制 14. 介護度・介護の状況・介護力 15. 介護者の健康状態・生活状況 16. 家族の地域・家庭内における役割 17. 療養・介護指導 18. 療養者の意向・思い 19. 介護者の意向・思い 20. 住環境・地域環境 21. 社会資源の活用状況						
3. 訪問看護活動に参加し、在宅療養者と家族に必要な援助の一部を実施する。	1. 療養者と家族に対する援助の方法 2. 療養者と家族に対する援助の目的の設定 3. 生活の場に合わせた援助の工夫 4. 安全・安楽・自立性 5. 家庭内にある物品の活用・創意工夫・経済性 6. 療養者と家族の希望 7. 家族の介護力 8. 生活様式・生活習慣の尊重 9. 共感的・受容的態度 10. 権利擁護 11. 訪問時のマナー・身だしなみ・挨拶・言葉遣い						

学習活動	内容
<p>4. 訪問看護活動や多職種が連携する場に参加し、対象に必要な社会資源と多職種連携について理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護にかかわる法令</li> <li>2. 訪問看護制度</li> <li>3. 訪問看護サービスの提供方法と提供内容</li> <li>4. 社会資源の活用状況</li> <li>5. 在宅療養に関する職種と関係機関</li> <li>6. 関係機関との連絡方法</li> <li>7. 継続看護</li> <li>8. 住宅改修・福祉用具の活用</li> </ol>
<p>5. 訪問看護ステーションでの実習を通して訪問看護の特徴と看護師の役割について理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護ステーションのオリエンテーションに参加 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 訪問看護ステーションの管理・運営上の概要</li> <li>2) 設置主体</li> <li>3) 訪問看護ステーションの近隣地域の特性</li> <li>4) 地域における訪問看護ステーションの位置づけ</li> <li>5) 訪問看護ステーションの利用手続きと指定書類</li> <li>6) 利用者の概要</li> </ol> </li> <li>2. 施設内看護と在宅看護の特徴と違い</li> <li>3. 施設内看護と在宅看護の連携方法</li> <li>4. 療養の場の多様化と多職種連携</li> <li>5. 継続看護</li> <li>6. 自立・自律支援</li> <li>7. 療養者と家族の意思決定支援</li> <li>8. その人らしさ・QOL</li> </ol>
<p>成績評価方法</p>	<p>臨地実習の評価要領、在宅看護論実習評価基準に準ずる。</p>

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学概論	担当 教員	八田 亜希子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	1年次・中期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけと特徴を3側面から理解する。 2. 成人期における健康問題の特徴を理解する。 3. 成人期の特徴をふまえた看護が理解できる。						
時間	学 習 内 容						
15H	1. 成人各期の特徴と発達課題 1) 成人とは 2) 青年期・壮年期・中年期・向老期  2. 成人の健康問題の特徴 1) 成人の健康の動向 2) 成人の健康問題 (1) 生活行動がもたらす健康問題 ①生活習慣による健康問題 ②就業、労働形態による健康問題 ③メンタルヘルス  3. 成人教育の概念 1) 成人の教育観 2) 成人教育の概念と支援方法						
14H	4. 成人の健康状態に応じた看護 1) 経過各期（ヘルスプロモーション・急性期・回復期・慢性期・終末期）  5. 成人を対象とした健康行動の支援の実際 <u>演習</u> 1) 個別指導と集団指導						
試験1H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 成人看護学1 成人看護学総論 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)						

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論 I (急性期、循環・呼吸)	担当 教員	田邊 和也 杉村 隆幸	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	2年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 成人期にある急性期の対象の特徴・健康の状態を理解する。 2. 急激な健康状態の変化の応じた患者の看護が理解できる。						
時間	学 習 内 容						
16H	<p>循環器系疾患患者の看護</p> <p>1. 患者・急性期看護の特徴</p> <p>2. 疾患をもつ患者の看護</p> <p>1) 狭心症・心筋梗塞</p> <p>2) 心不全</p> <p>3) 不整脈</p> <p>3. 症状をもつ患者の看護</p> <p>1) 胸痛</p> <p>2) 動悸</p> <p>3) 浮腫</p> <p>4) 呼吸困難</p> <p>5) チアノーゼ</p> <p>6) 失神</p> <p>7) 血圧異常・ショック</p> <p>4. 検査を受ける患者の看護</p> <p>1) 心電図12誘導</p> <p>2) 心臓カテーテル検査</p> <p>5. 治療処置を受ける患者の看護</p> <p>1) 冠動脈インターベンション</p> <p>2) 安静療法</p> <p>3) 心臓リハビリテーション</p> <p>4) 薬物療法</p> <p>5) 手術療法</p> <p>6. 臨床判断、リスク管理</p> <p>急性心筋梗塞</p>	13H	<p>呼吸器系疾患患者の看護</p> <p>1. 患者・急性期看護の特徴</p> <p>2. 疾患をもつ患者の看護</p> <p>1) 肺炎 2) 慢性閉塞性肺疾患</p> <p>3) 気胸 4) 肺癌</p> <p>3. 症状をもつ患者の看護</p> <p>1) 咳嗽・喀痰・喘鳴</p> <p>2) 呼吸困難</p> <p>3) 胸痛</p> <p>4) 胸水</p> <p>4. 検査を受ける患者の看護</p> <p>1) 内視鏡検査</p> <p>2) 酸素飽和度測定</p> <p>3) 動脈血ガス分析</p> <p>4) 呼吸機能検査</p> <p>5. 治療処置を受ける患者の看護</p> <p>1) 酸素療法</p> <p>2) 人工呼吸療法</p> <p>3) 呼吸リハビリテーション</p> <p>4) 低圧持続吸引 胸腔ドレナージ</p> <p>5) 手術療法</p> <p>6. 呼吸を整える援助 <u>演習(3H)</u></p> <p>1) 体位ドレナージ</p> <p>2) 口腔・鼻腔・気管内吸引</p>	試験 1H			
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	<p>系看 専門 成人看護学3 循環器 (医学書院)</p> <p>系看 専門 成人看護学2 呼吸器 (医学書院)</p> <p>系看 専門 基礎看護学3 基礎看護技術II (医学書院)</p> <p>看護技術プラクティス (学研)</p>						

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅱ (慢性期、内分泌・腎泌尿)	担当 教員	角川 和也 荒金 崇介	単位数	1	時間数	2年次
				受講年次・時期			
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別			
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 成人期にある慢性期の対象の特徴・健康の状態を理解する。 2. 社会生活を送れるためのセルフケア向上に向けた看護が理解できる。						
時間	学 習 内 容						
15H	内分泌系疾患患者の看護 1. 患者・慢性期看護の特徴  2. 疾患をもつ患者の看護 1) 糖尿病 2) 尿酸代謝異常 3) パセドウ病 4) クッシング病  3. 症状をもつ患者の看護 1) 血糖異常 2) 口渇 3) 多尿 4) やせ・肥満 5) メルゼブルク三主徴  4. 検査を受ける患者の看護 1) 尿検査(尿糖) 2) 簡易血糖測定 <u>演習(2H)</u> 3) ホルモン検査 4) 糖負荷試験  5. 治療処置を受ける患者の看護 1) 薬物療法 2) 食事療法 3) 運動療法	14H	腎泌尿器系疾患患者の看護 1. 患者・慢性期看護の特徴  2. 疾患をもつ患者の看護 1) 前立腺肥大症 2) 前立腺癌 3) 腎不全 4) 膀胱癌 5) 腎・尿路結石  3. 症状をもつ患者の看護 1) 排尿障害 2) 尿の性状異常 3) 浮腫 4) 貧血 5) 血圧異常  4. 検査を受ける患者の看護 1) 尿検査 2) 尿流量測定・残尿測定 3) 直腸診 4) 腎生検 5) 内視鏡検査(DIP 膀胱鏡)  5. 治療処置を受ける患者の看護 1) 血液透析・腹膜透析 2) 食事療法 3) 薬物療法 4) 手術療法 5) 腎移植  6. 排尿を整える援助 1) 自己導尿 2) ウロストミーケア	試験 1H			
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 成人看護学6 内分泌・代謝 (医学書院) 系看 専門 成人看護学8 腎・泌尿器 (医学書院) 系看 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)						

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅲ (回復期、脳神経・運動)	担当 教員	本江 真人 次郎内 茂	単位数	1	時間数	
				受講年次・時期		2年次	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別		必	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 成人期にある回復期の対象の特徴・健康の状態を理解する。 2. 障害がある人々を支援する看護が理解できる。						
時間	学 習 内 容						
15H	脳神経系疾患患者の看護 1. 患者・回復期看護の特徴  2. 疾患をもつ患者の看護 1) 脳出血 2) 脳梗塞 3) 脳腫瘍 4) パーキンソン病 5) ALS  3. 症状をもつ患者の看護 1) 意識障害 2) 言語障害 3) 運動機能障害 4) 感覚障害 5) 嚥下障害 6) 排尿障害 7) 呼吸障害 8) 頭蓋内圧亢進  4. 検査を受ける患者の看護 1) CT・MRI 2) 髄液検査 3) 脳波 4) 脳血管造影  5. 治療処置を受ける患者の看護 1) リハビリテーション 2) 手術療法 3) 薬物療法 4) 化学療法・放射線療法	14H	運動器系疾患患者の看護 1. 患者・回復期看護の特徴  2. 疾患をもつ患者の看護 1) 骨折 2) 腰椎椎間板ヘルニア 3) 脊髄損傷 4) 関節リウマチ 5) 骨粗鬆症  3. 症状をもつ患者の看護 1) 疼痛 2) 変形 3) 関節拘縮 4) 運動麻痺  4. 検査を受ける患者の看護 1) 骨密度測定 2) ミエログラフィ 3) 徒手筋力テスト  5. 治療処置を受ける患者の看護 1) 理学療法・作業療法 2) 義肢・装具 3) 牽引 4) 手術療法 5) 包帯法				
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 成人看護学7 脳・神経 (医学書院) 系看 専門 成人看護学10 運動器 (医学書院)						

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅳ (終末期、血液造血・消化)	担当 教員	西村 好栄 赤井 明美 葛谷 みどり	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 成人期にある終末期の対象の特徴・健康の状態を理解する。 2. その人らしく生を全うできるための看護が理解できる。						
時間	学習内容						
8 H	血液、造血器系疾患患者の看護 1. 患者の特徴  2. 疾患をもつ患者の看護 1) 悪性リンパ腫 2) 急性白血病  3. 症状をもつ患者の看護 1) 易感染状態 2) 出血傾向 3) 貧血  4. 検査を受ける患者の看護 1) 末梢血検査 2) 骨髄検査  5. 治療処置を受ける患者の看護 1) 化学療法 2) 輸血療法 3) 造血幹細胞移植術	11 H	消化器系疾患患者の看護 1. 患者の特徴  2. 疾患をもつ患者の看護 1) 食道がん 2) 胃がん 3) 大腸がん 4) 肝硬変・肝臓がん 5) 胆のう炎・胆石症 6) 膵臓がん  3. 症状をもつ患者の看護 1) 腹痛 2) 下痢・便秘 3) 吐血・下血 4) 腹部膨満 5) 嘔気・嘔吐 6) 腹水 7) 黄疸 8) 肝性脳症  4. 検査を受ける患者の看護 1) 内視鏡検査 (胃内視鏡 大腸内視鏡) 2) 造影検査 3) 腹水穿刺  5. 治療処置を受ける患者の看護 1) 薬物療法 2) 栄養・食事療法 3) 胆汁ドレナージ				
10 H	終末期にある患者の看護 1. 終末期医療 2. 緩和ケア 3. 全人的苦痛への看護 4. その人らしい生活への看護 5. 家族支援 6. アドバンス・ケア・プランニング 7. 様々な場における終末期ケア	試験 1 H					
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 成人看護学4 血液・造血器 (医学書院) 系看 専門 成人看護学5 消化器 (医学書院) 新体系看護学全書 経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア						

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論V (外科系、急性～回復期)	担当 教員	山本 はるみ 大井 豊隆	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	2年次・後期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 成人期にある周手術期の対象の特徴、健康の状態を理解する。 2. 手術侵襲の状態を捉え、合併症予防・回復促進するための看護が理解できる。						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. 周手術期の看護の特徴	6 H	7. 事例展開	1) 胃がんで手術療法を受ける 壮年期男性の看護過程 (1) アセスメント (2) 診断 (3) 計画			
2 H	2. 手術侵襲と生体反応	2 H	8. 人工肛門造設術を受けた患者の看護	1) ストーマケア 2) 日常生活への支援			
2 H	1) ムーアの分類	4 H	9. 術後合併症リスクに応じた	状態観察、創傷処置 (シミュレーション) <u>演習(3H)</u>			
2 H	2) 神経・内分泌反応						
2 H	3. 創傷治癒過程						
2 H	1) 創傷治癒過程の各相						
2 H	2) 手術創部の観察と処置						
2 H	4. 開腹・開胸・鏡視下術の特徴						
11 H	5. 術前の看護						
	1) アセスメント						
	2) 術前オリエンテーション						
	3) 術後合併症予防の援助						
	4) 患者と家族の心理への援助						
	6. 術後の看護						
	1) 患者のアセスメント						
	2) 回復促進への援助						
	3) 合併症予防の援助						
	4) 自己管理と生活を支える援助						
	5) 患者と家族の心理への援助						
		試験 1 H					
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) 系看 専門 基礎看護学3 基礎看護技術II (医学書院) 系看 専門 成人看護学5 消化器 (医学書院)						

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論VI (事例展開)	担当 教員	青木 愛子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	2年次・中期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	壮年期にある対象の特徴、慢性病との共存を支える看護が理解できる。						
時間	学 習 内 容						
	《事例展開》 糖尿病を患い、生活の管理を必要とする壮年期の患者						
1 H	1. 事例展開の学習の視点						
10 H	2. 糖尿病患者の看護の視点						
	3. アセスメント						
	4. 看護上の問題の明確化						
	5. 看護上の問題の優先度						
	6. 看護計画						
4 H	7. 実施(ロールプレイ)・評価						
成績評価方法	課題 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 成人看護学6 内分泌・代謝 (医学書院) 系看 専門 成人看護学1 成人看護学総論 (医学書院)						

専門分野—成人看護学援助論マトリックス

科目名	単位	時間数	系統別	主要症状	治療処置	検査	看護技術	関連疾患	
急性期にある患者の看護	1	30	14	循環	胸痛、動悸、失神 血圧異常・ショック 浮腫、呼吸困難 チアノーゼ	インターベンション療法 安静療法 心臓リハビリテーション 薬物療法 手術療法	心電図12誘導 心臓カテーテル検査	AMIの臨床判断	狭心症 心筋梗塞 心不全 不整脈
			16	呼吸	咳嗽・喀痰・喘鳴 呼吸困難 胸痛 胸水	酸素療法 人工呼吸療法 呼吸リハビリテーション 低圧持続吸引 胸腔ドレナージ 手術療法	動脈血ガス分析 酸素飽和度測定 内視鏡検査 呼吸機能検査	体位ドレナージ（演） 口腔・鼻腔・気管内吸引（演）	肺炎 COPD 気胸 肺癌
慢性期にある患者の看護	1	30	16	内分泌	血糖異常 口渇、多尿 やせ、肥満 メルゼブルク三主徴	薬物療法 食事療法 運動療法	尿検査 簡易血糖測定（演） ホルモン検査 糖負荷試験		糖尿病 尿酸代謝異常 パセドウ病 クッシング病
			14	腎・泌尿器	排尿障害 尿の性状異常 浮腫 貧血、血圧異常	血液透析・腹膜透析 食事療法 薬物療法 手術療法 腎移植	尿検査 尿流量測定・残尿測定 直腸診、腎生検 内視鏡検査	自己導尿 ウロストミーケア	前立腺肥大症 前立腺癌 腎不全 膀胱癌 腎腫瘍 腎・尿路結石
回復期にある患者の看護	1	30	15	脳神経	意識障害、言語障害 運動機能障害 嚥下障害、感覚障害 排尿障害、呼吸障害 頭蓋内圧亢進症状	リハビリテーション 手術療法 薬物療法 化学療法 放射線療法	CT・MRI 髄液検査 脳波 脳血管造影		脳出血 脳梗塞 脳腫瘍 パーキンソン病 ALS
			15	運動	疼痛、変形 関節拘縮 運動麻痺	理学療法・作業療法 義肢・装具 牽引 手術療法 包帯法	骨密度測定 ミエログラフィ 徒手筋力テスト		骨折 腰椎椎間板ヘルニア 脊髄損傷 関節リウマチ 骨粗鬆症
終末期にある患者の看護	1	30	8	血液・造血器	易感染状態 出血傾向 貧血	化学療法 輸血療法 造血幹細胞移植術	末梢血検査 骨髄検査		悪性リンパ腫 急性白血病
			12	消化	腹痛、便秘・下痢 吐血・下血 腹部膨満 嘔気・嘔吐 腹水、黄疸 肝性脳症	薬物療法 栄養・食事療法 胆汁ドレナージ	内視鏡検査(GIF、CF) 造影検査 腹水穿刺		食道がん、胃がん 大腸がん 肝硬変・肝臓がん 胆のう炎・胆石症 膵臓がん
			10					緩和ケア	
V	1	30			術前訓練	術前検査	創傷処置（演） ストーマケア 手術療法を受ける患者の看護過程	胃がん	
VI	1	15					DMの患者の看護過程の展開	糖尿病	

（演）演習

専門分野—成人看護学

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅰ (慢性の経過をたどる対象の看護)	担当 教員	青木 愛子	単位数	2	時間数	80
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師として臨床経験あり					
学習目的	対象の発達段階、健康障害を理解し、症状に応じた看護の実践ができる能力を養う。						
学習活動		内容					
1. 発達段階や対象の健康の経過をふまえ、機能低下や機能変化について理解する。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階・発達課題</li> <li>2. 現病歴</li> <li>3. 既往歴</li> <li>4. 治療方針・治療内容</li> <li>5. 加齢による身体的変化</li> <li>6. 疾病・治療に伴う身体的変化</li> <li>7. 全人的苦痛 (身体的・精神的・社会的・霊的)</li> <li>8. 病気・治療・入院生活に対する思い</li> <li>9. 社会参加の状況、社会的役割、経済状態</li> <li>10. 家族構成・家族関係、家族の思い・サポート力</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 入院前の介護度・介護の状態</li> <li>12. 生活習慣、趣味、嗜好</li> <li>13. ADL、BADL、IADL</li> <li>14. 生活リズム</li> <li>15. 強み</li> <li>16. 認知機能の状態</li> <li>17. コミュニケーション能力の状態</li> <li>18. 入院に伴う生活変化・環境変化</li> <li>19. 対象に必要な保健福祉チーム</li> </ol>			
2. 健康の経過、生活上の変化を持つ対象の状況をふまえ、症状に応じた援助を実施する。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階、経過別</li> <li>2. 症状、治療、処置、検査の状況</li> <li>3. セルフケア能力、現在のセルフケア状況</li> <li>4. 一日の過ごし方 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入院前・入院後</li> </ol> </li> <li>5. 生活習慣・生活様式</li> <li>6. 今後の生活の場の環境状況</li> <li>7. 実施可能かの判断</li> <li>8. 実施前の調整 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 援助の時間設定、タイミング</li> </ol> </li> <li>9. 安全、安楽、プライバシーの確保</li> <li>10. 対象・家族の意向に合わせた実施</li> <li>11. 状態に合わせた援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 清潔への援助</li> <li>2) 活動や休息への援助</li> <li>3) 食事・排泄を整える援助</li> <li>4) 環境調整</li> <li>5) 教育支援</li> </ol> </li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>12. 看護の評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 必要な事実の選択</li> <li>2) 事実のアセスメント</li> <li>3) 目標の達成状況</li> <li>4) 看護問題の状況</li> <li>5) 危険因子、関連因子の状況</li> <li>6) 次への具体策、計画の修正、変更</li> </ol> </li> <li>13. 緊急度、優先度の判断</li> <li>14. 実施したことや、対象・家族の反応</li> <li>15. 事実に基づいた判断</li> <li>16. 時宜を得た報告</li> <li>17. チームでの情報交換</li> <li>18. チーム間の連携</li> </ol>			
3. 実践を通して、発達段階・健康障害をふまえた看護の理解を深める。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の権利と権利擁護 (アドボカシー)</li> <li>2. 意思決定支援 アドバンスケアプランニング(ACP)</li> <li>3. 健康行動に対する支援方法 (理論、概念) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自己効力</li> <li>2) エンパワーメント</li> <li>3) セルフケアとセルフマネジメント</li> <li>4) 障害受容の段階</li> </ol> </li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 家族構成を踏まえたサポート体制の状況</li> <li>5. 対象と家族の発達段階</li> <li>6. 家族のライフサイクルと発達課題</li> <li>7. 家族への支援</li> <li>8. 自己管理・生活調整への支援</li> <li>9. 多職種との連携</li> <li>10. 看護の役割</li> </ol>			
成績評価方法	臨地実習の実習評価要領・成人・老年看護学実習Ⅰ評価規準に準ずる						

専門分野—成人看護学

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅱ (慢性期、回復期、終末期)	担当 教員	青木 愛子	単位数	2	時間数	80		
				受講年次・時期		3年次・全期			
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修				
		看護師としての臨床経験あり							
学習目的	経過各期の特徴を踏まえ、対象のQOLを意識し、状況に応じた看護の実践ができる能力を養う。								
学習活動		内容							
1. 健康上、生活上の状況を理解し、経過各期の特徴を踏まえ、対象を理解する。	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 現病歴</li> <li>2. 既往歴</li> <li>3. 治療方針・治療内容・告知内容</li> <li>4. 発達段階・発達課題</li> <li>5. 身体的変化</li> <li>6. 心理的变化</li> <li>7. 病気・治療・入院に対する思い</li> <li>8. 回復への期待、意欲</li> <li>9. 死・障害の受容プロセス</li> <li>10. 価値信念・人生観・死生観</li> <li>11. 社会参加の状況、社会的役割、経済状態</li> <li>12. 家族構成・家族関係、家族や周囲の思い・サポート力</li> <li>13. 介護度・介護の状態</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>14. 利用できる資源</li> <li>15. 生活習慣、趣味、嗜好</li> <li>16. ADL</li> <li>17. 日常生活の規則、生活リズム</li> <li>18. 強み</li> <li>19. 認知機能の状態</li> <li>20. 訴えや症状の発生機序</li> <li>21. コミュニケーション能力の状態</li> <li>22. 入院に伴う生活変化</li> <li>23. 入院中の環境</li> <li>24. 経過各期の特徴(慢性期、回復期、終末期)</li> </ul> </td> </tr> </table>							<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 現病歴</li> <li>2. 既往歴</li> <li>3. 治療方針・治療内容・告知内容</li> <li>4. 発達段階・発達課題</li> <li>5. 身体的変化</li> <li>6. 心理的变化</li> <li>7. 病気・治療・入院に対する思い</li> <li>8. 回復への期待、意欲</li> <li>9. 死・障害の受容プロセス</li> <li>10. 価値信念・人生観・死生観</li> <li>11. 社会参加の状況、社会的役割、経済状態</li> <li>12. 家族構成・家族関係、家族や周囲の思い・サポート力</li> <li>13. 介護度・介護の状態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>14. 利用できる資源</li> <li>15. 生活習慣、趣味、嗜好</li> <li>16. ADL</li> <li>17. 日常生活の規則、生活リズム</li> <li>18. 強み</li> <li>19. 認知機能の状態</li> <li>20. 訴えや症状の発生機序</li> <li>21. コミュニケーション能力の状態</li> <li>22. 入院に伴う生活変化</li> <li>23. 入院中の環境</li> <li>24. 経過各期の特徴(慢性期、回復期、終末期)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 現病歴</li> <li>2. 既往歴</li> <li>3. 治療方針・治療内容・告知内容</li> <li>4. 発達段階・発達課題</li> <li>5. 身体的変化</li> <li>6. 心理的变化</li> <li>7. 病気・治療・入院に対する思い</li> <li>8. 回復への期待、意欲</li> <li>9. 死・障害の受容プロセス</li> <li>10. 価値信念・人生観・死生観</li> <li>11. 社会参加の状況、社会的役割、経済状態</li> <li>12. 家族構成・家族関係、家族や周囲の思い・サポート力</li> <li>13. 介護度・介護の状態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>14. 利用できる資源</li> <li>15. 生活習慣、趣味、嗜好</li> <li>16. ADL</li> <li>17. 日常生活の規則、生活リズム</li> <li>18. 強み</li> <li>19. 認知機能の状態</li> <li>20. 訴えや症状の発生機序</li> <li>21. コミュニケーション能力の状態</li> <li>22. 入院に伴う生活変化</li> <li>23. 入院中の環境</li> <li>24. 経過各期の特徴(慢性期、回復期、終末期)</li> </ul>								
2. 対象の状況を判断し、その人らしさを意識した看護を実施する。	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 全人的苦痛 (身体的・精神的・社会的・霊的)</li> <li>2. 疼痛緩和の方法</li> <li>3. QOL</li> <li>4. 今後の生活の場の環境状況</li> <li>5. 状態に合わせた日常生活援助</li> <li>6. その人らしい日常生活再構築への支援</li> <li>7. セルフケア、セルフマネジメント</li> <li>8. 安全、安楽、プライバシーの確保</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>9. 意思決定支援</li> <li>10. コンプライアンス・エンパワメント</li> <li>11. 家族アプローチ</li> <li>12. リフレクション</li> <li>13. 緊急度、優先度の判断</li> <li>14. 実施したことや対象・家族の反応</li> <li>15. 事実に基づいた判断</li> <li>16. 時宜を得た報告</li> <li>17. チームでの情報交換</li> <li>18. チーム間の連携</li> </ul> </td> </tr> </table>							<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 全人的苦痛 (身体的・精神的・社会的・霊的)</li> <li>2. 疼痛緩和の方法</li> <li>3. QOL</li> <li>4. 今後の生活の場の環境状況</li> <li>5. 状態に合わせた日常生活援助</li> <li>6. その人らしい日常生活再構築への支援</li> <li>7. セルフケア、セルフマネジメント</li> <li>8. 安全、安楽、プライバシーの確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9. 意思決定支援</li> <li>10. コンプライアンス・エンパワメント</li> <li>11. 家族アプローチ</li> <li>12. リフレクション</li> <li>13. 緊急度、優先度の判断</li> <li>14. 実施したことや対象・家族の反応</li> <li>15. 事実に基づいた判断</li> <li>16. 時宜を得た報告</li> <li>17. チームでの情報交換</li> <li>18. チーム間の連携</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 全人的苦痛 (身体的・精神的・社会的・霊的)</li> <li>2. 疼痛緩和の方法</li> <li>3. QOL</li> <li>4. 今後の生活の場の環境状況</li> <li>5. 状態に合わせた日常生活援助</li> <li>6. その人らしい日常生活再構築への支援</li> <li>7. セルフケア、セルフマネジメント</li> <li>8. 安全、安楽、プライバシーの確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9. 意思決定支援</li> <li>10. コンプライアンス・エンパワメント</li> <li>11. 家族アプローチ</li> <li>12. リフレクション</li> <li>13. 緊急度、優先度の判断</li> <li>14. 実施したことや対象・家族の反応</li> <li>15. 事実に基づいた判断</li> <li>16. 時宜を得た報告</li> <li>17. チームでの情報交換</li> <li>18. チーム間の連携</li> </ul>								
3. 地域・在宅への生活に向けた看護支援の必要性を理解する。	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 対象・家族の状態</li> <li>2. 経過各期の看護の特徴</li> <li>3. その人らしさの尊重</li> <li>4. 看護の必要性</li> <li>5. 健康行動に対する支援方法 (理論、概念)</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>6. 継続看護、退院支援</li> <li>7. 多職種連携</li> <li>8. 倫理的配慮</li> <li>9. 社会資源</li> </ul> </td> </tr> </table>							<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 対象・家族の状態</li> <li>2. 経過各期の看護の特徴</li> <li>3. その人らしさの尊重</li> <li>4. 看護の必要性</li> <li>5. 健康行動に対する支援方法 (理論、概念)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6. 継続看護、退院支援</li> <li>7. 多職種連携</li> <li>8. 倫理的配慮</li> <li>9. 社会資源</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 対象・家族の状態</li> <li>2. 経過各期の看護の特徴</li> <li>3. その人らしさの尊重</li> <li>4. 看護の必要性</li> <li>5. 健康行動に対する支援方法 (理論、概念)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6. 継続看護、退院支援</li> <li>7. 多職種連携</li> <li>8. 倫理的配慮</li> <li>9. 社会資源</li> </ul>								
成績評価方法	臨地実習の評価要領・成人・老年看護学実習Ⅱ評価基準に準ずる								

専門分野－成人看護学

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅲ (急性・回復期)	担当 教員	山本 はるみ	単位数	2	時間数	80
				受講年次・時期		3年次・全期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	急性期回復期の対象を理解し、合併症予防や回復促進に向けた看護ができる能力を養う。						
学習活動		内容					
1. 手術侵襲からの回復の程度を理解して、術後合併症予防、術後の生活支援や回復を促す援助をする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 標準看護計画の活用</li> <li>2. 発達段階、社会的役割</li> <li>3. 発病前・入院前の生活の様子</li> <li>4. 病態・経過別</li> <li>5. 麻酔方法・術式・再建方法</li> <li>6. 開腹術, 腹腔鏡視下手術</li> <li>7. 留置ドレーンの種類と位置</li> <li>8. 手術前の状態</li> <li>9. 手術中の状態</li> <li>10. 手術後の状態</li> <li>11. 創部・ドレーンの観察</li> <li>12. 輸液・使用薬剤</li> <li>13. 疼痛コントロール</li> <li>14. ムーアの分類・創傷治癒過程</li> <li>15. 検査データ</li> <li>16. 術後合併症 (麻酔方法、術式・再建方法、既往歴によるもの)</li> <li>17. ドレーン類の管理</li> <li>18. 手術侵襲</li> <li>19. ドレーン類の影響</li> <li>20. 苦痛を軽減するための援助</li> <li>21. 合併症予防</li> <li>22. 早期離床</li> <li>23. 状態に合わせた日常生活援助</li> <li>24. 形態的变化・機能的变化が生活に及ぼす影響</li> <li>25. 患者・家族の理解度</li> <li>26. ボディイメージ</li> <li>27. 意思決定支援</li> <li>28. 家族の協力・参加</li> <li>29. 退院後の生活、自己管理への援助</li> <li>30. 緊急度、優先度の判断</li> <li>31. 実施したことや患者、家族の反応</li> <li>32. 事実に基づいた判断</li> <li>33. 時宜を得た報告</li> <li>34. チームでの情報交換</li> <li>35. チーム間の連携</li> </ul>					
		2. 実践を通して、急性期・回復期の看護の理解を深める。		<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 急性期・回復期の特徴</li> <li>2. 発達段階、対象・家族の状態</li> <li>3. 障害受容・危機</li> <li>4. リハビリテーション</li> <li>5. 自己管理</li> <li>6. 社会復帰</li> <li>7. 保健医療福祉の連携、多職種連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 入院と外来</li> <li>2) 在宅や地域との連携</li> <li>3) 社会資源の活用</li> </ul> </li> <li>8. 継続的な看護</li> </ul>			
成績評価方法		臨地実習の評価要領・成人・老年看護学実習Ⅲ評価基準に準ずる					

専門分野－老年看護学

授業科目	老年看護学概論	担当 教員	鈴木 里美 高山 未佳	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	1年次・中期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 老年期にある対象の特徴を理解する。 2. 老年期の対象をとりまく社会と看護の役割を理解する。						
時間	学 習 内 容						
14H	1. 老年期とは 1) ライフサイクルステージのなかの老年期 2) 加齢と老化  2. 加齢(老化)に伴う諸機能の変化 1) 身体的側面の変化 (1) 生理機能の年齢による変化 (2) ホメオスタシスの変化 (3) 諸機能の変化 2) 心理的側面の変化 (1) 知能の変化 (2) 認知能力の変化 (3) 高齢者の生きる上でのよりどころ、価値観・信念 3) 社会的機能の変化 (1) 社会的役割の変化 4) 高齢者疑似体験 <u>演習(3H)</u>	15H	3. 高齢者をとりまく社会 1) 超高齢社会の現状 (1) 老年人口割合の変化 (2) 家族形態の変化 (3) 家庭介護の問題 2) 高齢社会における保健医療福祉の動向 3) 高齢社会における権利擁護 (1) エイジズム・高齢者のアドボカシー (2) 高齢者虐待の現状  4. 老年期を生きる人々の生活と健康 1) 老年期の健康の特徴 (1) 高齢者の健康意識 (2) 健康寿命 (3) 老年期の生活 (4) 高齢者の生きがい  5. 老年看護の役割 1) 老年看護の対象 2) 老年看護の目標 3) 老年看護の特徴	試験1H			
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 老年看護学 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)						

専門分野－老年看護学

授業科目	老年看護学援助論 I (日常生活の看護)	担当 教員	八田 亜希子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 老年期にある対象への日常生活の援助方法を理解する。 2. 終末期にある老年期の対象に対する援助を理解する。						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. 高齢者と生活リズム 1) 加齢に伴う睡眠と覚醒の変化 不眠・過眠・昼間の眠け 概日リズム 2) 生活リズムを整える援助  2. 高齢者のコミュニケーション 1) 高齢者にみられる コミュニケーションの特徴 感覚機能の低下 老人性難聴、失語症、構音障害 2) 状態・状況に応じた コミュニケーションの方法	4 H	5. 高齢者の排泄への援助 1) 加齢に伴う排泄機能の変化 排尿障害の特徴 排便障害の特徴 2) 排泄ケアの方法 摘便・おむつ交換・失禁ケア <u>演習 (2 H)</u>	2 H	6. 高齢者の終末期の看護 1) 死の迎えかたに関する 意向への理解 2) 苦痛の緩和と安楽への看護 3) 家族の心理の理解と看護		
2 H	3. 高齢者の清潔への援助 1) 加齢に伴う皮膚の変化 乾燥・掻痒、浸軟、菲薄、白癬 2) セルフケア能力の特徴 3) 清潔を整える方法						
4 H	4. 高齢者の食生活への援助 1) 加齢に伴う摂食嚥下機能の変化 摂食嚥下機能障害 2) 加齢に伴う栄養状態の変調 3) 食生活の支援 嚥下機能障害のある患者の 食事介助 <u>演習 (2 H)</u>						
				試験 1 H			
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 老年看護学 (医学書院) 系看 専門 老年看護 病態・疾患編 (医学書院)						

専門分野－老年看護学

授業科目	老年看護学援助論Ⅱ (症状・機能障害別看護)	担当 教員	中川 由紀 川上 喜久男 土田 昌美		単位数	1	時間数	30	
					受講年次・時期		2年次・前期		
授業形式	講義	実務経験			必修・選択別	必修			
		看護師としての臨床経験あり							
学習目標	1. 高齢者の生活に影響を与える症状・兆候を理解する。 2. 老年期にある対象への治療・処置別看護や多様な生活の場に応じた援助の方法を理解する。								
時間	学 習 内 容								
11H	1. 老年症候群とは  2. 高齢者に多い症状・兆候 1) 腰背部痛 2) やせ 3) 手足のしびれ 4) 浮腫 5) 熱中症 6) 脱水症 7) 発熱	6H	5. 高齢者をとりまく社会 高齢者の看護 1) 廃用症候群とは 2) 廃用症候群予防への看護 (1) 廃用症候群の症状 (2) 全身と生活状況のアセスメント (3) 廃用症候群の早期発見 予防への看護	2H	6. 生活・療養の場における 高齢者の看護 1) 在宅高齢者と家族への看護 2) 保健医療福祉施設における 患者と家族への看護 3) 多職種連携				
2H	3. 治療・処置をうける高齢者の看護 1) 検査を受ける高齢者の看護 2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 3) リハビリテーションを受ける 高齢者の看護								
8H	4. 認知機能障害のある高齢者の看護 1) うつ 2) せん妄 3) 認知症 (1) 認知症とは (2) 認知症の症状 (3) 認知症を抱える患者 家族への看護								
				試験 1H					
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)								
参考文献他	系看 専門 老年看護学 (医学書院) 系看 専門 老年看護 病態・疾患編 (医学書院)								

専門分野－老年看護学

授業科目	老年看護学援助論Ⅲ (事例展開)	担当 教員	伊吹 麻紀子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	老年期にある対象の特徴や健康の状態に応じた看護の方法を理解する。						
時間	学 習 内 容						
1 H	1. 大腿骨頸部骨折術後の機能回復訓練を必要とする高齢者の事例展開						
	1) 事例展開の学習の視点						
	2) 大腿骨頸部骨折患者の看護の視点						
6 H	3) アセスメント						
1 H	4) 看護上の問題の明確化						
2 H	5) 看護計画						
4 H	6) 実施・評価						
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 老年看護学 (医学書院) 系看 専門 老年看護 病態・疾患編 (医学書院)						

専門分野—老年看護学

授業科目	老年看護学実習	担当 教員	八田 亜希子	単位数	1	時間数	40
				受講年次・時期		2年次・中期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師として臨床経験あり					
学習目的	日常生活援助を通して、老年期にある対象の看護を理解する。						
学習活動		内容					
1. 対象に現れている加齢性変化や健康上の問題を抱えている高齢者の健康状態を理解する。		1. 加齢性変化 2. 日常生活場面 3. 対象の一日の過ごし方 4. 現在の生活に対する思い 5. 入院前の生活状況、生活習慣 6. 高齢者の疾病をめぐる特徴 7. 疾患・治療が対象に与えている影響 8. 入院による規制が与えている影響 9. 加齢性変化が与えている影響 10. 対象と家族に必要な保健医療福祉の連携 11. 関連因子・危険因子 12. 強み 13. 看護上の問題					
2. 対象に現れている加齢性変化やコミュニケーションの特徴に合わせてコミュニケーションをはかる。		1. 加齢性変化が与えている影響 2. 日常生活援助の場面を活用したコミュニケーション 3. 対象を尊重したコミュニケーション 4. 言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの活用 5. プロセスレコードの活用 6. 考察したことを次の対応へ活用					
成績評価方法		臨地実習の実習評価要領・老年看護学実習評価規準に準ずる					

専門分野－小児看護学

授業科目	小児看護学概論 I (子どもと社会)	担当 教員	西村 洋子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講 義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 子どもの特性と子どもをとりまく社会を理解する。 2. 小児看護の特徴と役割を理解する。						
時 間	学 習 内 容						
14H	1. 小児看護の対象 1) 子どもとは 2) ライフサイクルにおける小児期 3) 小児期の区分 4) 子どもにとっての家族  2. 子どもと家族を取り巻く社会 1) 小児と家族の諸統計 2) 児童福祉 3) 医療費の支援 4) 予防接種  3. 子どもの権利 1) 児童観の変遷 2) 児童憲章 3) 児童の権利に関する条約  4. 小児看護とは 1) 小児医療・小児看護の変遷 2) 小児の特性 3) 小児看護の目標と役割 4) 小児医療における倫理 5) 小児看護の課題						
試験 1H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)						

専門分野－小児看護学

授業科目	小児看護学概論Ⅱ (子どもの成長・発達と看護)	担当 教員	鈴木 里美	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講 義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	子どもの成長・発達と健康増進のための子どもと家族への看護について理解する。						
時 間	学 習 内 容						
6 H	1. 子どもの成長と発達 1) 成長・発達の原則 2) 成長・発達に影響する因子 3) 成長・発達の評価						
4 H	2. 小児各期の成長・発達の特徴と養育および看護 1) 新生児期 (1) 形態的・身体生理の特徴 (2) 各機能の発達 (3) 日常生活の世話						
6 H	2) 乳児期 (1) 形態的・身体生理の特徴 (2) 感覚・運動機能 (3) 日常生活の世話						
6 H	3) 幼児期 (1) 形態的・身体生理の特徴 (2) 感覚・運動機能 (3) 情緒・社会的機能 (4) 遊びの発達と社会性 (5) 日常生活の自立と世話 (6) 事故防止						
4 H	4) 学童期 (1) 形態的・身体生理の特徴 (2) 感覚・運動機能 (3) 知的・社会的機能 (4) 学習と遊び (5) 特別支援教育 (6) 学校保健						
3 H	5) 思春期 (1) 形態的・身体生理の特徴 (2) 知的・情緒(心理)的・社会的機能 (3) 心理・社会的適応に関する問題						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)						

専門分野－小児看護学

授業科目	小児看護学援助論 I (健康障害と看護)	担当 教員	成宮 正朗 森岡 真希	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 子どもの健康障害について理解する。 2. 健康障害のある子どもと家族の看護について理解する。						
時間	学 習 内 容						
14H	1. 胎内で影響を受けた健康障害 1) 代謝異常 2) 染色体異常 3) 胎芽病 4) 胎児病 5) 骨系統疾患 6) 低出生時体重児  2. 子どもに特徴的な健康障害 1) 消化器 2) 呼吸器 3) 循環器・血液 4) 腎・泌尿器 5) 脳・神経 6) 内分泌・代謝 7) 骨・関節 8) 感覚器 9) 免疫・アレルギー 10) 感染症 11) 悪性新生物 12) 精神障害 13) 事故・外傷	15H	3. 入院が必要な子どもと家族の看護 1) 子どもの入院環境 2) 入院が及ぼす子ども・家族への影響 3) 入院時の看護 4) 入院中の生活援助 5) 退院時の看護  4. 外来における子どもと家族の看護 1) 外来を訪れる子どもと家族の特徴 2) 診察・処置を受ける子どもと家族の看護  5. 症状にともなう子どもと家族の看護 1) 発熱 2) 呼吸困難 3) 嘔吐 4) 下痢 5) 脱水 6) けいれん 7) 発疹 8) 痛み				

専門分野－小児看護学

授業科目	小児看護学援助論 I (健康障害と看護)	担当 教員	成宮 正朗 森岡 真希	単位数	1	時間数	30
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		受講年次・時期		2年次・後期	
時 間	学 習 内 容						
試験 1 H	<p>6. 治療・処置を受ける子どもと家族の看護</p> <p>1) 活動制限</p> <p>2) 隔離</p> <p>3) 食事制限</p> <p>4) 薬物療法・検査・処置</p> <p>7. NICUにおける小児とその家族の看護 (保育器の取り扱いを含む)</p> <p>8. 子どもの虐待と看護</p> <p>9. 心身障害のある子どもと家族の看護</p> <p>1) 心身障害の種類と定義</p> <p>2) 心身障害のある子どもをとりまく環境</p> <p>10. 小児看護に必要な技術 <u>演習 (2 H)</u></p> <p>1) 点滴固定</p> <p>2) 身体測定</p> <p>3) バイタルサイン測定</p> <p>4) 検査時の介助 (採尿、採血)</p> <p>5) 抑制</p>						
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)						
参 考 文 献 他	<p>系看 専門 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)</p> <p>系看 専門 小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院)</p>						

専門分野－小児看護学

授業科目	小児看護学援助論Ⅱ (状況別看護、事例展開)	担当 教員	川瀬 さゆり	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 健康障害の状況に応じた子どもと家族の看護について理解する。 2. 看護過程の展開を通して小児期にある対象の看護を理解する。						
時間	学 習 内 容						
14H	1. 健康障害のある子どもと家族の看護 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期 4) 思春期  2. 健康障害の経過と子どもと家族の看護 1) 急性期 2) 周手術期 3) 慢性期 4) 終末期  3. 事例による看護過程の展開 慢性期にある子どもの看護:気管支喘息の6歳男児看護 1) アセスメント 2) 診断 3) 計画 4) 実施 5) 評価						
試験1H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 系看 専門 小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院)						

専門分野—小児看護学

授業科目	小児看護学実習	担当 教員	川瀬 さゆり	単位数	2	時間数	80
				受講年次・時期	3年次・全期		
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	小児とその家族を理解し、成長・発達、発達段階、健康の段階に応じた看護が実践できる能力を養う。						
学習目標	<p>&lt;保育園実習&gt;</p> <p>1. 子どもの成長・発達を理解し、子どもの特徴を捉えることができる。</p> <p>2. 子どもの発達段階に応じた日常生活へのかかわり方、家族とのかかわり方が理解できる。</p> <p>&lt;病棟実習&gt;</p> <p>1. 小児の成長・発達と健康状態をとらえることができる。</p> <p>2. 小児の状況に応じた看護が実践できる。</p> <p>3. 小児看護の特徴を理解できる。</p>						
	学習活動	内容					
	1. レクリエーションや生活の援助に参加し、小児の成長・発達に合わせたかかわり方を考える。	1. 発達区分 2. 基本的な生活習慣の獲得 3. 愛着形成 4. 認知機能 5. 情緒・社会性機能 6. コミュニケーション機能 7. 生理的機能	8. 運動機能 9. 形態的機能 10. ピアジェの認知発達理論 11. エリクソンの自我発達理論 12. ボウルビイの愛着理論 13. 患児・家族とのかかわり方 14. 家族との連携				
	2. 患児への援助を通して小児の特徴と健康問題をとらえて必要な看護を考える。	1. 患児の状態・状況 2. 観察技術 3. 情報源の活用 4. 情報収集手段の選択・場面の選択 5. 発達段階	6. 発達課題 7. ピアジェの認知発達理論 8. エリクソンの自我発達理論 9. ボウルビイの愛着理論 10. 基本的な生活習慣の獲得 11. 病態関連図				
	3. 患児や家族とコミュニケーションをとりながら、健康障害に応じた看護を実践する。	1. 子どもの権利 2. 遊び 3. おもちゃの選択 4. 生活援助 5. 処置 6. 声掛け 7. プロセスレコードの振り返りの視点 8. 病棟アメニティ	9. 病棟環境 10. ベッド周囲の環境 11. 転倒転落 12. 家族の協力 13. 季節の行事 14. 学習環境				
	4. 体験したことをもとに小児看護の理解を深める。	1. 小児の入院 2. 診療の補助 3. 危険防止 4. 感染防止 5. 事故防止 6. 継続看護 7. 生命維持	8. 愛着形成 9. 異常の早期発見 10. 家族看護 11. 子どもの権利 12. 成長発達の促進 13. 回復の促進				
	成績評価方法	臨地実習の評価要領・小児看護学実習評価基準に準ずる					

専門分野－母性看護学

授業科目	母性看護学概論	担当 教員	八木 美智子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	2年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 母性の概念、母性看護の特徴を理解する。 2. 母子保健の現状と動向、母性看護の役割を理解する。						
時間	学 習 内 容						
14H	1. 母性看護の基盤となる概念 1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ 4) リプロダクティブヘルス/ライツ 5) ヘルスプロモーション  2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護の歴史的変遷と現状 2) 母性看護の提供システム  3. 母性看護の対象理解 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) 女性のライフサイクルと家族  4. 母子保健統計の動向、母性看護にかかわる法律・施策 <u>演習</u> 1) 母子保健統計の動向 2) 母性看護にかかわる法律 3) 母性看護にかかわる施策  5. 母性看護のあり方 1) 母性看護とは 2) 母性看護における倫理 3) 母性看護における安全・事故予防						
試験1H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 母性看護学1 母性看護学概論 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)						

専門分野－母性看護学

授業科目	母性看護学援助論 I (妊娠期の看護)	担当 教員	三ツ井 久美 八木 美智子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	2年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別	必修		
学習目標	1. 女性のライフステージ各期における看護を理解する。 2. 妊娠期の看護を理解する。						
時間	学 習 内 容						
14 H	1. 女性のライフステージ各期における看護 <u>演習</u> 1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護 2) 思春期の健康と看護 3) 性成熟期の健康と看護 4) 更年期の健康と看護  2. リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 人工妊娠中絶と看護 4) 性暴力を受けた女性に対する看護 5) 在日外国人の母子保健						
15 H	3. 妊娠期における看護 1) 妊娠期の身体的特性 2) 妊娠期の心理・社会的特性 3) 妊婦と胎児のアセスメント 4) 妊婦と家族の看護 5) 親になるための準備教育  4. 妊娠の異常と看護 1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠高血圧症候群 4) 妊娠持続期間の異常 5) 異所性妊娠						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 成人看護学9 女性生殖器 (医学書院) 系看 専門 母性看護学1 母性看護学概論 (医学書院) 系看 専門 母性看護学2 母性看護学各論 (医学書院)						

専門分野－母性看護学

授業科目	母性看護学援助論Ⅱ (分娩・産褥期、新生児の看護)	担当 教員	東野 千佳 押谷 優子 津田 まゆみ	単位数	1	時間数	30	
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		受講年次・時期		2年次・後期		
学習目標	1. 分娩・産褥期及び新生児の看護を理解する。							
時間	学 習 内 容							
10H	1. 分娩期における看護 1) 分娩の要素 2) 分娩の経過 3) 産婦・胎児、家族のアセスメント 4) 産婦と家族の看護 5) 分娩期の看護の実際	9H	5. 新生児期における看護 1) 新生児の生理 2) 新生児のアセスメント 3) 新生児の看護 (新生児の観察 沐浴) <u>演習 (2H)</u>					
10H	2. 分娩の異常と看護 1) 産道・娩出力の異常 2) 胎児・付属物の異常 3) 胎児機能不全 4) 分娩時異常出血 5) 産科処置と産科手術		6. 新生児の異常と看護 1) 新生児仮死 2) 低出生体重児 3) 高ビリルビン血症					
	3. 産褥期における看護 1) 産褥経過 2) 褥婦のアセスメント 3) 褥婦と家族の看護 4) 施設退院後の看護 5) 帝王切開術後の看護							
	4. 産褥の異常と看護 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱 3) 乳房トラブル 4) 育児に困難さをかかえる 母親への看護 5) 子を亡くした褥婦・家族への看護	試験 1H						
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)							
参考文献他	系看 専門 母性看護学2 母性看護学各論 (医学書院)							

専門分野－母性看護学

授業科目	母性看護学援助論Ⅲ (事例展開)	担当 教員	八木 美智子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	2年次・後期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	母性の対象の特徴を踏まえた看護方法(ウェルネス看護)を理解する。						
時間	学 習 内 容						
14H	<p>《事例展開》 初産婦 : 正常妊娠・分娩・産褥経過          新生児 : 正常経過</p> <p>1. ウェルネス看護診断</p> <p>2. 母性看護学における事例展開の学習の視点</p> <p>1) 妊娠、分娩、産褥の生理的变化</p> <p>2) 新生児の生理的变化</p> <p>3) 母子相互作用</p> <p>4) 家族および社会のサポート体制</p> <p>3. 情報の収集と整理</p> <p>1) 妊娠経過記録</p> <p>2) 分娩のまとめ</p> <p>3) 新生児経過記録</p> <p>4) 関連図</p> <p>4. アセスメント</p> <p>5. 看護上の問題の明確化</p> <p>6. 看護上の問題の優先順位</p> <p>7. 看護計画</p> <p>8. 実施・評価</p> <p>9. 帝王切開を受けた褥婦の看護</p>						
試験1H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 母性看護学1 母性看護学概論 (医学書院) 系看 専門 母性看護学2 母性看護学各論 (医学書院) ウェルネスにもとづの視点にもとづく母性看護過程 (医歯薬出版)						

専門分野—母性看護学

授業科目	母性看護学実習	担当 教員	八木 美智子	単位数	2	時間数	80
				受講年次・時期	3年次・全期		
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	1. 妊娠・分娩・産褥各期にある対象及び新生児の特徴を理解し、正常な経過にむけての看護が実践できる能力を養う。 2. 女性の一生を通じた健康の保持・増進をめざした看護が理解できる。						
学習活動		内容					
1. 産科・婦人科で看護師とともに行動し、女性のライフステージ各期の健康問題と看護の実際を知る。		1. 産科・婦人科の特徴 2. 女性のライフステージ各期の健康問題、治療・看護の特徴 1) 思春期（月経異常、性感染症、妊娠） 2) 性成熟期（月経困難症、女性に特有のがん、妊娠・出産） (1) 妊娠週数に伴う妊婦の生理的変化と検査 (体重、血圧、尿検査、子宮底長、腹囲、胎位、超音波所見（CRL・BPD・FL・EFWL）、内診所見、血液検査、膣分泌物検査） (2) 妊娠経過の正常・異常（母体・胎児の経過） (3) 保健指導（体重増加、妊娠高血圧症候群、貧血、切迫流産・早産等） (4) 妊娠経過に伴う心理・社会的変化 3) 更年期・老年期（更年期障害、尿失禁、骨粗鬆症） 3. 産科・婦人科における看護師の役割					
2. 分娩見学や分娩体験について、カンファレンスで話し合うことや、受け持ち褥婦の分娩経過を知ること、産婦の分娩経過と看護を理解する。		1. 分娩進行と胎児の状態（子宮口開大、陣痛の間欠・発作時間、胎児心音） 2. 分娩進行を促すための援助（体位、排泄、活動、休息） 3. 陣痛や苦痛を和らげるための援助 （補助動作、マッサージ、呼吸法、体位、環境、心理面） 4. 日常生活への援助（食事、休息、清潔） 5. 分娩の正常・異常（分娩経過、分娩後の母体、胎児（新生児）、胎児付属物） 6. 産婦の心理的変化					
3-1. 全身復古、子宮復古を促進する。		1. 妊娠・分娩経過 2. 退行性変化（子宮、悪露の変化、全身の変化） 3. 進行性変化（乳房の変化、乳汁分泌の経過・メカニズム） 4. 退行性変化・進行性変化に影響する要因 （妊娠経過、分娩経過、ホルモンの変化、栄養、排泄、活動、睡眠・休息、自己概念、新生児の状態） 5. 家族構成、退院後の環境、サポート体制 6. 社会資源、諸制度の活用 7. 褥婦の認識と反応 8. 育児技術習得状況、愛着形成と影響因子 9. 褥婦のありのまま、強み（できているところ、よいところ）に着目した目標および計画 （異常を正常に、正常をより正常に経過させる、自己管理） 10. 個別性のある具体策 11. 子宮復古促進への援助 12. 乳汁分泌促進への援助 13. 母子関係を成立させるための援助 14. 安全、安楽に配慮した援助 15. プライバシーに配慮した援助					
3-2. 乳汁分泌、授乳行動を促進する。							

学習活動	内容
3-3. 保健指導の場に参加し、母子関係の成立を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>16. 実施前の褥婦、新生児の状況確認</li> <li>17. 実施のための必要な調整、判断</li> <li>18. 実施した看護、対象の反応、目標に照らし合わせた評価</li> <li>19. 必要な計画の修正、追加</li> <li>20. 事実に基づいた判断、時宜を得た報告</li> </ul>
4. 新生児の状態観察・沐浴等の必要なケアを実施し、胎外環境への適応を助ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 出生時の状態 (在胎週数、体重、アプガースコア、V/S、臍帯動脈血 pH、羊水混濁、頭血腫・産瘤、胎脂、外表奇形など)</li> <li>2. V/S、体重の増減、哺乳量・内容、吸啜力、排泄（回数、性状）、黄疸、皮膚の状態、臍、活気、反射、生後日数、経時的变化</li> <li>3. 安全・安楽、原理・原則をふまえた実施 (V/S測定、沐浴、おむつ交換、授乳、環境調整、感染予防)</li> <li>4. 実施した内容、新生児の生理的变化、生後日数、状況に基づいた正常・異常の判断、時宜を得た報告</li> </ul>
5. 母性看護における継続看護の実際について知り、母性看護における継続看護の必要性を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦健診、母親教室、助産師外来</li> <li>2. 分娩（入院時）</li> <li>3. 2週間健診、1ヵ月健診、退院後の生活環境・サポート体制</li> <li>4. 社会資源</li> </ul>
6. 対象の思い、対象や家族に対するスタッフや自己の関わりについて振り返り、自己の母性観・父性観・看護観について述べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩見学等の母性看護学実習における経験</li> <li>2. 受け持ちケースとの関わり</li> <li>3. スタッフの関わり</li> </ul>
成績評価方法	臨地実習の評価要領および母性看護学実習評価基準に準ずる

専門分野－精神看護学

授業科目	精神看護学概論 I (心の健康)	担当 教員	松井 麻美	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 人間の心の構造と機能について理解する。 2. 心の健康を保持増進するための看護について理解する。						
時間	学 習 内 容						
2 H	1. 精神看護の対象と役割 1) 精神看護の目的 2) 精神看護の対象 3) 精神看護の役割 4) 精神看護の動向と課題						
4 H	2. 心の健康とは 1) 心の健康とその考え方 2) 心の健康維持						
4 H	3. 心の発達・人格の成熟 1) 欲求と適応 2) 自我の防衛機制 3) フロイトの発達論 4) エリクソンの発達論						
4 H	4. 治療的關係形成 1) 援助的自己活用 2) コミュニケーションスキル 3) 患者－看護師關係の發展過程						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 (メディカ出版)						

専門分野－精神看護学

授業科目	精神看護学概論Ⅱ (危機・保健活動)	担当 教員	呉竹 礼子 吉田 麻美	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 人間の成長発達の過程や社会状況の中で生じる危機に対する看護について理解する。 2. 精神保健医療福祉の歴史と法制度の変遷について理解する。 3. 精神に障害をもつ患者への地域精神保健活動について理解する。						
時間	学 習 内 容						
15H	1. 危機理論とストレス理論 1) 危機理論 2) ストレス理論  2. 現代社会とこころ 1) 家庭 2) 学校 3) 職場 4) 地域社会  3. ストレスに対する反応 1) 身体的疾患をもつ患者の心の健康 2) 患者家族の心の健康 3) 災害における心の健康 4) ストレスと心の健康						
14H	4. 精神保健医療福祉の歴史と現状 1) 精神保健医療福祉の歴史 2) 精神保健医療福祉の法制度  5. 地域精神保健活動 1) 地域生活を支える社会資源の活用 2) 地域生活（移行）支援の実際  6. 看護の倫理と人権擁護 1) 精神科医療におけるアドボカシーの必要性 2) 地域生活における権利擁護						
試験1H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 (メディカ出版)						

専門分野－精神看護学

授業科目	精神看護学援助論 I (健康障害と看護)	担当 教員	橋本 開 宇野 辰悟 堀江 明宏		単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		2年次・後期			
授業形式	講義	実務経験			必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり						
学習目標	1. 精神症状のとらえ方と主な疾患、検査、治療について理解できる。 2. 精神に障害をもつ対象に対する看護を理解する。							
時間	学 習 内 容							
15H	1. 精神症状と精神疾患 1) 精神疾患総論 2) 自閉症スペクトラム障害 (ASD) 3) 統合失調症 4) 抑うつ障害と双極性障害 5) 不安障害 6) 強迫性障害 (OCD) 7) ストレス因関連障害 8) 解離性障害 9) 身体症状症および関連症 10) 摂食障害 11) 睡眠－覚醒障害 12) 物質関連障害 13) 神経認知障害 (認知症) 14) パーソナリティ障害 15) 身体疾患と精神症状  2. 検査 1) 心理検査 2) 知能検査 3) 性格検査 4) 脳波検査  3. 治療 1) 薬物療法 2) 精神療法 3) 社会療法 4) 電気けいれん療法 (ECT)			14H	4. 主要症状と状態の看護 1) 幻覚妄想状態にある患者の看護 2) 拒絶状態にある患者の看護 3) 自閉傾向にある患者の看護 4) 自傷、自殺企図のある患者の看護 5) 不安、不眠状態にある患者の看護 6) 躁状態にある患者の看護 7) 抑うつ状態にある患者の看護  5. 検査、治療を受ける患者の看護  6. 患者理解とコミュニケーション  7. 精神科看護師の役割と機能  8. 入院環境と治療的アプローチ			
試験1H								
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)							
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 (メディカ出版)							

専門分野－精神看護学

授業科目	精神看護学援助論Ⅱ (事例展開)	担当 教員	松井 麻美	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	精神に障害のある対象の看護の方法を理解する。						
時 間	学 習 内 容						
14H	<p>1. 事例に学ぶ看護の実際 (45歳、女性、慢性期にある統合失調症看護の実際) 《事例展開》統合失調症で無為自閉傾向にある患者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神事例展開の学習の視点</li> <li>2) 統合失調症患者 (慢性期) における看護の視点</li> <li>3) アセスメント</li> <li>4) 看護上の問題の明確化</li> <li>5) 看護上の問題の優先順位</li> <li>6) 看護計画</li> <li>7) 実施 (ロールプレイ) ・評価</li> </ol>						
試験1H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 (メディカ出版)						

専門分野—精神看護学

授業科目	精神看護学実習	担当 教員	松井 麻美	単位数	2	時間数	80
				受講年次・時期		3年次・全期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	精神障害のある対象および家族を理解し、 精神の健康回復および社会復帰に向けての看護が実践できる能力を養う。						
学習活動		内容					
1. 生育歴や生活歴を通して精神に障害を持つ対象を知る。		1. 現病歴 2. 生育歴 3. 入院前の生活状況・生活習慣 4. 家族構成と家族歴 5. 入院から受け持つまでの経過 6. 家族状況・関係 7. 病気による精神機能の変化 1) 現在の精神症状 2) 現実検討力、病識 3) セルフケア能力 4) コミュニケーション能力 疎通性の障害	8. 精神科における治療 (薬物・精神・リハビリテーション) 9. 治療上の規制・行動制限 10. 退院後の生活状況 11. 経済的影響 12. 社会資源 13. サポート体制				
2. 作業療法や、病棟行事を共に過ごし、対象の状況に応じた日常生活援助を行う。		1. セルフケア看護モデル 2. レジリエンス 3. ストレングス 4. 社会的相互作用 1) 対人関係の維持、拡大 2) 信頼関係を結ぶことの意味 5. コーピング 6. ADL IADL 7. 発達段階の特徴 8. 生活習慣・生活様式 9. 治療的コミュニケーションの活用	10. 言語的メッセージと非言語的メッセージ 11. 自分の感じた気持ちの言語化 12. 安全・安楽・経済性 13. 創意工夫 14. 適切な資源の活用 15. 実施したことや対象の反応 16. 判断 17. 時宜を得た報告 18. 健康的な側面からの実施 19. 対象と計画の共有・評価				
3. 対象との関わりを通して、患者-看護師関係について振り返る。		1. 患者-看護師関係 ペプロウ、トラベルビー 2. プロセスレコード 1) 対象に生じている感情の変化 2) 自己に生じている感情の変化 3) 自分の感じた気持ちの言語化 3. 家族関係・生活背景との関連 4. 危機的状況の対処としての反応 5. 対人関係能力	6. 治療的コミュニケーション 7. パーソナルスペース 8. アサーティブ 9. Iメッセージを活用 10. 環境調整 11. 倫理的配慮を考えた関わり				

学習活動	内容	
<p>4. 病院・病棟見学を通して、精神科の特徴や対象のおかれている現状を知る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医療の歴史の変遷</li> <li>2. 精神保健福祉法 入院形態・行動制限・人権擁護</li> <li>3. 精神科病棟の特殊性 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病棟の構造の特徴 閉鎖病棟・施錠・保護室</li> <li>2) 一般病棟との違いとその理由 病棟管理、代理行為など</li> <li>3) 安全管理の特殊性 危険物管理 構造上の工夫 人員確認 行動制限の周知 包括的暴力防止プログラム（CVPPP） 緊急時のシステム</li> <li>4) 入院患者の概要 年齢・性別・疾患・入院形態・在院日数</li> <li>5) 病棟の日課</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 障害者総合支援法</li> <li>5. その他関連法規</li> <li>6. 継続看護</li> <li>7. チーム医療</li> <li>8. 社会資源とその活用の実際 法的資源・物的資源・人的資源</li> <li>9. アドボカシー</li> <li>10. リカバリー</li> </ol>
<p>5. 退院カンファレンスへの参加、グループホームの見学などを通して、対象に必要な多職種連携や社会資源について理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健福祉法 入院形態・行動制限・人権擁護</li> <li>2. 障害者総合支援法</li> <li>3. 継続看護</li> <li>4. 地域包括支援</li> <li>5. 成年後見人制度</li> <li>6. リカバリー</li> </ol>	
<p>成績評価方法</p>	<p>臨地実習の評価要領・精神看護学実習評価基準に準ずる</p>	

専門分野－看護の統合と実践

授業科目	看護管理・国際看護	担当 教員	佐々木 久栄 中村 寛子 高野 洋子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	3年次・前期		
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 看護の動向を知り、看護のマネジメントができる基礎的知識を理解する。 2. 世界の健康問題と課題について知り、国際社会における看護の役割について理解する。						
時間	学習内容						
4 H	1. 看護を取り巻く諸制度 1) 看護職 2) 医療制度 3) 看護政策と制度	10 H	1. 国際看護学とは 1) 世界の健康問題の現状 2) 国際看護学の定義 3) 国際看護学の対象				
10 H	2. 看護とマネジメント 1) 看護管理、マネジメントとは 2) 看護ケアのマネジメント ・患者の権利 ・倫理的配慮 ・安全管理 ・多職種との連携・協働 ・日常業務のマネジメント 3) 看護サービスのマネジメント ・看護の組織化 ・看護単位の機能と特徴 ・看護ケア提供システム ・人材、施設、物品、 情報のマネジメント ・組織におけるリスクマネジメント ・サービスの評価		2. グローバルヘルス 1) インターナショナルヘルスから グローバルヘルスへ 2) プライマリヘルスケアと ヘルスプロモーション 3) 人間の安全保障 4) ミレニアム開発目標 (MDGs) 5) 持続可能な開発目標 (SDGs) 6) ユニバーサルヘルスカバレッジ ヘルスプロモーション				
5 H	4) マネジメントに必要な知識と技術 ・リーダーシップとマネジメント ・組織の調整 ・組織と個人 5) 看護職のキャリアマネジメント ・看護の教育体制 ・看護職のキャリア形成		3. 国際協力のしくみ 1) 国際協力とは 2) 国際救援・保健医療協力分野で活躍 する国際機関 3) 開発協力とは				
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 看護の統合と実践1 看護管理 (医学書院) 系看 専門 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 (医学書院)						

専門分野－看護の統合と実践

授業科目	医療安全	担当 教員	高橋 ひろ好	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	3年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 看護・医療事故に関する基礎的知識を身につけ、事故を予防するための方法について理解する。						
時 間	学 習 内 容						
11H	1. 医療を取り巻く社会の状況 2. ヒューマンエラー 3. わが国の医療安全管理 4. 医療事故の事例分析 5. 看護におけるリスクマネジメント 6. 組織としての医療安全対策 7. 医療安全管理の課題 8. 感染予防対策						
3H	9. 安全管理、セーフティ活動 KYT (危険予知トレーニング) <u>演習 (2H)</u>						
試験1H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 看護の統合と実践2 医療安全 (医学書院)						

専門分野－看護の統合と実践

授業科目	災害看護	担当 教員	富岡 康弘 野崎 麻紀	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	2年次・後期		
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別	必修		
学習目標	1. 災害看護活動が行える基礎的知識を理解する。 2. 救命救急処置について理解し、実践できる基礎的能力を習得する。						
時間	学 習 内 容						
7 H	1. 災害医療の基礎知識 2. 災害看護の基礎知識 3. 災害サイクルに応じた看護活動 4. 被災者特性に応じた災害看護 5. 災害とこころのケア						
5 H	6. 災害看護活動の実際 <u>演習 (3 H)</u> *学外災害訓練参加						
2 H	7. 救命救急処置技術 <u>演習 (2 H)</u> 1) 意識レベルの把握 2) 気道確保 3) 人工呼吸 4) 胸骨圧迫 5) AEDによる除細動 6) 止血法						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験・課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 看護の統合と実践 3 災害看護学・国際看護学 (医学書院) 系看 専門 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)						

専門分野－看護の統合と実践

授業科目	臨床看護実践	担当 教員	伊吹 麻紀子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	3年次・前期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 状況に応じた看護ができる基礎的な能力を習得する。 2. 複数の患者の状況に応じて看護の優先順位を考え、実践し評価できる基礎的な能力を習得できる。						
時間	学 習 内 容						
10H	1. 健康状態や治療経過をふまえた対象理解 1) 患者の課題の明確化 2) 訪室の目的  2. 臨床判断に基づく看護援助の実践 <u>演習(6H)</u> 1) 患者の観察、状況判断、援助の選択 2) リスクの予測、信頼関係の形成  3. 学習プロセスの振り返り 1) 自己評価 2) 自己課題の明確化						
20H	4. 看護の優先順位の判断と行動スケジュール 1) 行動スケジュールとは 2) 看護の優先順位とは 3) 複数の患者の看護計画 4) 行動スケジュールの調整 5) 看護の評価  5. 複数の患者の優先順位を考えた援助と評価 <u>演習</u> 1) 2名の患者の援助 <u>シミュレーション(4H)</u> 2) 多重課題の援助 <u>シミュレーション(4H)</u>						
成績評価方法	課題 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門 看護の統合と実践1 看護管理 (医学書院)						

専門分野—看護の統合と実践

授業科目	統合実習	担当 教員	伊吹 麻紀子	単位数	3	時間数	120
				受講年次・時期	3年次・後期		
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	<p>1. 地域医療における多職種連携と看護師の役割を理解できる。</p> <p>2. 看護チームの一員の体験、複数患者の受け持ちを通して、看護実践力を養う。</p> <p>3. 看護実践を通して、専門職としての役割と責任を理解する。</p>						
学習活動		内容					
1. 入院・退院支援の見学を通して、多職種連携と看護師の役割を理解する。		<p>1. 地域における病院の位置づけ</p> <p>1) 地域における病院の役割 病院理念</p> <p>2. 継続医療・継続看護</p> <p>1) 地域連携クリニカルパス</p> <p>2) 地域包括ケアシステム</p> <p>3) 入院・退院継続看護</p> <p>4) 継続性のある質の高い看護の提供</p> <p>5) 入院目的</p> <p>6) インフォームドコンセント</p> <p>3. 社会資源</p> <p>1) 人的資源</p> <p>2) 物的資源</p> <p>3) フォーマル資源</p> <p>4) インフォーマル資源</p> <p>4. チーム医療活動（多職種連携）の実際</p> <p>1) チームの意識の形成</p> <p>2) 他職種の専門性の理解</p> <p>3) 役割の明確化</p> <p>4) 情報の共有</p> <p>5) 患者を中心に据えた体制作り</p> <p>6) 患者・家族の参加</p> <p>5. その人らしく生活することへの対象・家族支援</p> <p>1) QOL</p> <p>2) ニーズ（どんな生活をしたいか）</p> <p>3) 安楽</p> <p>4) 倫理的配慮</p> <p>5) 社会資源</p>					
2. 複数(2名)の患者を受け持ち、看護の優先順位、時間管理、安全を考慮して看護を実践する。		<p>1. 複数患者(2名)の情報収集</p> <p>1) 医学診断名</p> <p>2) 病名告知の有無・内容</p> <p>3) 看護上の問題・看護計画全体の把握</p> <p>4) 経過別</p> <p>5) 治療内容</p> <p>6) 指示内容</p> <p>7) 検査</p> <p>8) ADL</p> <p>9) 既往歴</p> <p>10) 家族構成</p> <p>2. 行動計画</p> <p>1) 行動スケジュールの立案</p> <p>2) 優先順位の判断</p> <p>3) 予定時間設定の根拠</p> <p>4) 行動スケジュールの評価</p> <p>5) 予定されている検査処置の時間の確認と援助実施の調整</p> <p>3. 実施</p> <p>1) 患者の状況に合わせた援助と実施の判断</p> <p>2) 病棟の看護計画における援助内容の確認</p> <p>3) 受け持ち患者に必要な援助の実施</p> <p>4) 適切な時間内での実施</p> <p>5) 患者の状況に応じた方法の選択</p> <p>6) 患者の反応を確認しながら実施</p> <p>7) 一人でできない援助についてメンバーに協力調整</p> <p>8) 実施前後の報告</p>					

学習活動	内容
<p>3. 看護チームの一員としての役割と責任を理解し、互いに協働して業務を実施する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 師長の役割と責任               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病棟目標の管理</li> <li>2) 患者への看護の適切性の評価</li> <li>3) スタッフの教育・指導</li> <li>4) 病棟の安全管理・物品管理</li> <li>5) 他部門との連携・調整</li> <li>6) 看護部組織の中での報告調整</li> <li>7) スタッフの配置と勤務スケジュール調整</li> </ol> </li> <li>2. リーダーの役割と責任               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 業務の分担</li> <li>2) 医師への報告・連絡調整</li> <li>3) メンバーへの指導・連絡調整</li> <li>4) 他部門との連携・調整</li> <li>5) チームカンファレンスの企画・運営</li> <li>6) 夜勤者への申し送り</li> </ol> </li> <li>3. 看護チームの一員として責務を果たすための主体的な行動               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) タイムリーで確実な報告・連絡・相談</li> <li>2) 情報共有</li> <li>3) 患者・家族への責任のある看護の実践</li> </ol> </li> <li>4. チームに与える影響を考えた行動               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 多職種の役割を認識し、互いを尊重した行動</li> <li>2) 良好なコミュニケーション</li> </ol> </li> <li>5. 看護専門職としての自覚、自己の課題               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 組織の一員としての自覚</li> <li>2) 看護専門職としての自己の課題の明確化</li> </ol> </li> </ol>
<p>4. 夜間の勤務体験を通して、看護師の業務内容と管理体制、夜間の患者の生活状況を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 夜間勤務における看護師の業務内容               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 夜間の病棟の管理体制・業務分担</li> <li>2) 夜間の検査・処置</li> <li>3) 夜間の日常生活援助</li> <li>4) 夜間の記録・報告</li> <li>5) 夜間の患者の安全確保の実際</li> <li>6) 医師への報告・連絡調整</li> </ol> </li> <li>2. 夜間の患者の生活状況</li> </ol>
<p>5. 申し送りに参加し、継続看護のための体制や連携の実際を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームにおける伝達の重要性・情報交換の意義</li> <li>2. 24時間の継続看護</li> <li>3. 連携の実際               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) チームメンバーとの情報の共有</li> <li>2) リーダーへの申し送り</li> <li>3) 夜勤者への申し送り</li> </ol> </li> </ol>
<p>成績評価方法</p>	<p>臨地実習の評価要領・統合実習評価基準に準ずる</p>

## VI 授業科目の評価要領

評価形態	評価方法及び評価の視点
終了時試験 <input type="radio"/> 筆記試験 (課題含む) <input type="radio"/> 実技試験	<p>【学則第5章第24条 成績の評価、細則第15条 成績の評価、細則第16条単位認定の基準】に準ずる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●単位を修得するには<u>2/3以上</u>の出席が必要である。</li> <li>●1科目1試験、<u>100点満点</u>であり、複数講師の場合は、講師の講義時間配分に見合う配点となる。(別紙『授業科目の時間・配点表』参照)</li> <li>●技術実技試験を伴う授業科目については、<u>筆記試験及び、実技試験の両者</u>で配点を行う。</li> <li>●筆記試験の時間は<u>60分</u>とする。</li> <li>●100点満点の<u>60点以上を合格</u>とし、<u>60点未満を不合格</u>とする。</li> <li>●不合格者が再試験を受験し、その点数が60点を超えた場合、合格とするが、<u>点数は60点</u>として取り扱う。</li> <li>●試験の評価基準は、100点を満点として、<u>80点以上を「A」、70点以上80点未満を「B」、60点以上70点未満を「C」、60点未満を「D」</u>の4段階である。 このうち、<u>「C」以上を合格</u>とし、単位修得とする。</li> <li>●単位が認定されなかった科目(臨地実習を含む。)においては、次年度以降に当該科目を再度履修し、成績の評価を受けなければならない。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●レポート               <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出日時の厳守</li> <li>・テーマに添った内容の妥当性</li> <li>・その他講師の指示に従う</li> </ul> </li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講師の評価の指示に準ずる。</li> </ul>